

館 報

第 46 号

(令和6年度)



富山市科学博物館の理念と使命

理念

富山市科学博物館は、市民の自然科学への関心と理解を深め、学習を支援し、市民生活の向上に貢献します。

使命

自然科学の総合博物館として、知的財産の継承を行うとともに郷土の自然の特性を解明し、自然科学の普及、理解向上に寄与します。

郷土の拠点となる自然科学系総合博物館として、関連する施設と連携しながら、幅広く富山の特性を生かした資料収集・調査研究・展示・普及教育の活動を行っていきます。

富山の自然を中心とした多様な実物標本・文献などの資料を、市民の貴重な知的財産として未来に伝えていくため、積極的に収集し、将来にわたって活用が可能なように整理保管を行うとともに、郷土の自然の特性を解明するなど、調査研究を進めていきます。

市民と自然科学との橋渡し役を担うべく、多様な展示や普及活動を展開し、特徴ある郷土の自然から宇宙まで広く自然科学について認識を深め、自然と共にある人間の姿を考えていきます。

主要事業

収集保管

郷土富山の自然や自然科学に関する実物標本、文献、映像、情報などの資料を計画的に収集し整理保管する。

郷土の自然を研究する方々のコレクションを積極的に受け入れ、富山の自然資料のセンターとしての役割を果たす。

収集した資料は「市民の貴重な財産」として将来に確実に引き継ぐとともに、データベース化を進め、展示や閲覧・貸し出し等により資料の活用を図る。

調査研究

収集した資料と情報を活用して、富山を中心とした地域の自然とそれにかかわる科学的事象について幅広い視点で調査研究し、その意味・価値を明らかにする。

研究成果は、館の研究報告、展示、講演会等で公開する。

また、最新の情報とその成果を吸収するよう研修に努め、高度化多様化するニーズに応じていく。

展 示

富山の自然環境とその生い立ちについて楽しく学習できる展示を行い、自然科学への認識を深める場、知的レクリエーションの場を提供する。

さらに、館の収集・研究の成果等を公開する場として特別展・企画展等を行うとともに、市民や児童生徒の活動成果を展示紹介する場を設け、自然観・科学観の育成を図る。

普 及

自然科学情報発信の場として、博物館資料や研究成果を活用しながら、科学のおもしろさや富山の自然の特徴を市民にわかりやすく伝える。

プラネタリウムで天文事象を紹介するとともに、多様な分野の学習会を館内外で展開する。

学校等の教育施設には、講師派遣・展示品貸し出し、各種印刷物の配布などをおとして、連携・協力を積極的に行う。

ボランティア活動、友の会活動等を通じ、市民の学習を積極的に支援する。

目 次

富山市科学博物館の理念と使命

1 概要

- I 沿革 1
- II 組織 2
- III 令和 6 年度予算・決算 6
- IV 観覧者及び施設利用の状況 7
- V 施設概要及び利用案内 9

2 調査研究事業

- I 研究体制 10
- II 分野別研究 10
- III 博物館学的研究 11
- IV 「研究報告第 48 号」の発行 11
- V 執筆文書
 - 1 学術論文 12
 - 2 読み物 12
- VI 学会などでの発表 13
- VII 科学研究費補助金による研究等 13
- VIII 表彰 13
- IX 国内の研修や学会などへの参加 14
- X 研究発表会等
 - 1 科学セミナー 14
 - 2 研究発表会 14

3 展示事業

- I 常設展示 15
- II 特別展 15
- III 企画展 15
- IV ロビー展示 16
- V その他 17

4 資料収集事業

- I 標本の受け入れ 18
- II 蔵書 19
- III 収蔵標本数の推移 19
- IV 標本等データベースのデータ数 20
- V 収蔵標本類の利用 20
- VI 地球規模生物多様性情報機構 (GBIF) へのデータ登録 21
- VII 主な標本類貸し出し 21
- VIII 収蔵標本の閲覧 21
- IX 害虫防除 22

5 普及教育事業

- I 館単独で主催した行事
 - 1 館外での行事 23
 - 2 館内での行事 24
- II 他機関・団体と共同で開催した行事
 - 1 館外での行事 31
 - 2 館内での行事 31
- III レファレンス（質問への回答） 33
- IV 移動ミニ博物館 34
- V 普及出版物 35
- VI 学校による博物館利用への協力 36
- VII 令和 6 年度「SDGs-ESD 富山シンポジウム」への参加 37
- VIII 市役所出前講座「科学博物館の展示と活動について」の実施 37

6 プラネタリウム投影事業

- I 一般向け投影 38
- II 幼児向け投影 40
- III 学習投影 40
- IV 特別投影 40
- V 特別イベント 41

7 恐竜化石事業

- I 普及行事 44

8 情報・広報事業

- I 情報システム 45
- II ウェブサイト・チラシ等による広報 45
- III 富山市広報・マスコミによる広報 46

9 他機関への協力

- I 全国大会等の開催 49
- II 研修等の受入
 - 1 教員研修「社会体験研修」の受入 49
 - 2 職場体験学習「社会に学ぶ『14 歳の挑戦』」の受入 49
 - 3 インターンシップの受入 50
 - 4 博物館実習生の受入 50
 - 5 富山大学「博物館展示論」への協力 50
 - 6 大学生・大学院生への研究指導の受入 50
 - 7 「宇宙の日」記念 全国小・中学生作文絵画コンテストの開催 50
- III 講師等の派遣
 - 1 講演会・講習会への派遣 51
 - 2 会議・研究会等への派遣 52
 - 3 大学非常勤講師派遣 53
- IV 委員等受嘱 53

10 ボランティア事業

- I 登録者数と活動時間 55
- II 活動内容 55
- III ボランティア通信の発行とメーリングリストの運営 56

11 「ジュニア科学賞・とやま」事業 57

12 科学博物館整備事業 58

13 富山市科学博物館友の会

- I 役員構成 59
- II 活動内容 59

14 アンケート調査結果

- I プラネタリウム幼児向け投影参加団体アンケート 61
- II プラネタリウム学習投影参加校アンケート 62

1 概 要

I 沿革

昭和

- 50. 8 教育委員会に科学文化センター構想プロジェクトチームを設置
- 51.12 富山市科学文化センター建設委員会設置
- 52. 1 基本構想策定建設設計委託
- 52. 8 職員全国公募、ディスプレイ設計委託
- 53. 5 建築設計完了
- 53. 7 建築工事請負契約締結、プラネタリウム設置工事請負契約締結着工
- 53. 8 ディスプレイ設計完了
- 54. 9 建築工事完了、富山市科学文化センター条例制定
- 54.10 プラネタリウム設置工事完了
- 54.11 竣工式(21日)、公開(23日)
- 55. 6 公立博物館として登録
- 55. 9 入館者 10 万人達成
- 58.10 皇太子・同妃殿下行啓
- 59.11 入館者 50 万人達成
- 59.11 科学文化センター創立5周年記念式典
- 60. 5 第1回理工展示室展示替え完了
- 62. 6 科学文化センター別館新築設計委託
- 62.10 科学文化センター別館新築設計完了

平成

- 1. 3 別館竣工
- 1. 7 別館竣工記念式典及び記念特別展「深海」開催
- 1.11 科学文化センター創立 10 周年記念式典
- 2. 5 入館者 100 万人達成
- 3.12 情報検索システムの導入
- 4. 3 第 1 回自然史展示室等展示替え完了
- 4.12 富山市天文台懇話会答申
- 5. 3 第 2 回理工展示室展示替え完了
- 5.12 富山市天文台基本構想策定委員会答申
- 6. 3 プラネタリウム更新(1 回目)
- 6.12 天文台基本設計完了
- 7. 3 天文台実施設計完了
- 7. 5 入館者 150 万人達成
- 9. 7 天文台竣工式(18日)、公開(19日)
- 9. 9 天文台の入館者 1 万人達成
- 9.12 ホームページ公開
- 11. 3 第 3 回理工展示室展示替え完了
- 11.11 創立 20 周年記念事業(23 日入館料無料)
- 14. 4 土・日・祝日を小中学生の入館料無料化
- 14. 7 入館者 200 万人達成
- 15. 8 ノーベル物理学賞受賞者の小柴昌俊氏が来館
- 15. 9 文部科学大臣による科学研究費補助金取扱規程に基づく研究機関の指定
- 15. 9 常設展の展示替え基本設計委託
- 16. 2 田中耕一氏紹介コーナーの設置
- 16. 2 第1回「ジュニア科学賞・とやま」表彰
- 16. 6 常設展の展示替え実施設計委託
- 16. 8 天文台の入館者 10 万人達成

平成

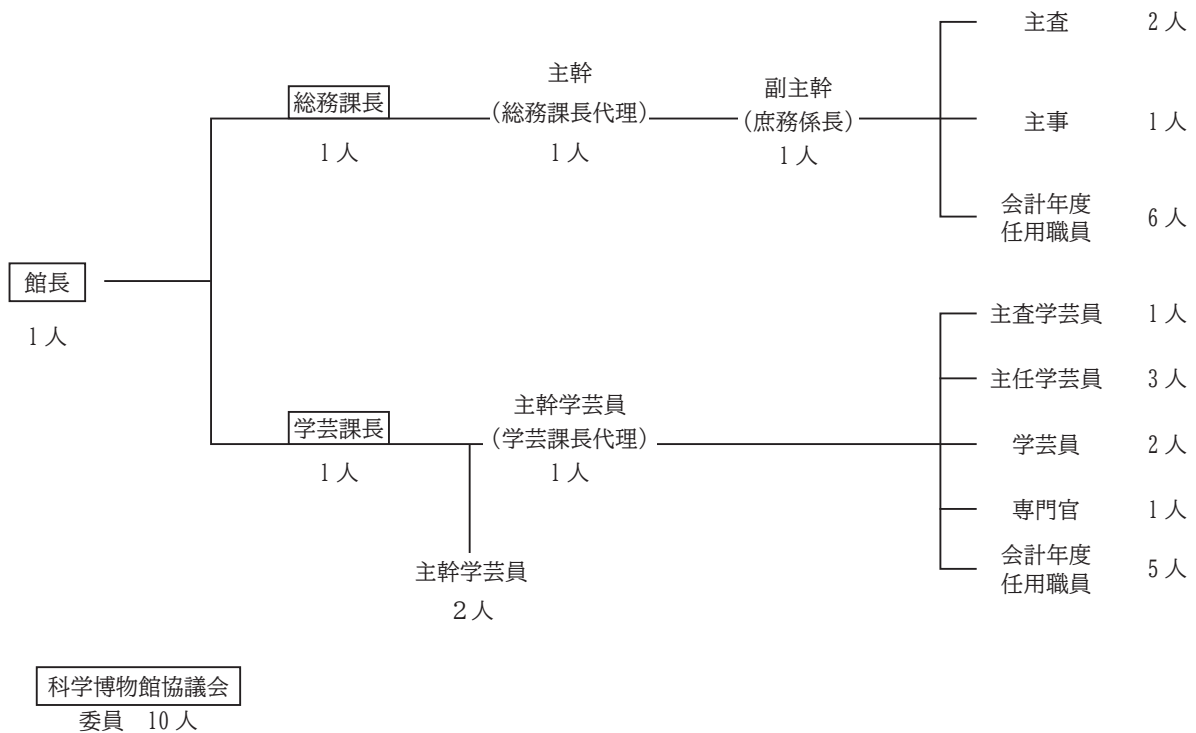
- 16.11 創立 25 周年記念事業(23 日入館料無料)
- 17. 8 アスベスト浮遊検出により理工展示室閉鎖
- 17.12 本館耐震診断を実施
- 18. 9 リニューアル工事のため全面休館(～ H19.7)
- 19. 3 能登半島地震(3/26 富山市震度5弱) 外壁調査
- 19. 7 富山市科学博物館への名称変更
- 19. 7 リニューアルオープン記念式典(13 日)
- 19. 8 リニューアル後の入館者 5 万人達成(30 日)
- 20. 1 リニューアル後の入館者 10 万人達成(13 日)
- 20. 7 リニューアル後の入館者 15 万人達成(6 日)
- 20.11 リニューアル後の入館者 20 万人達成(3 日、科学博物館まつり開催日)
- 21. 4 プラネタリウム更新(2 回目)
- 21. 7 「カップル無料の日」開始
- 22. 1 常陸宮殿下・同妃殿下ご視察(26 日)
- 23. 8 リニューアル後の入館者 50 万人達成(2 日)
- 24. 1 太陽光発電パネル設置
- 24. 1 展示室内省エネルギー照明整備(LED 化)
- 24. 7 本館設備改修工事(～ H26.7)
孫とおでかけ支援事業開始
- 25. 5 入館者 300 万人達成(2 日)
- 26. 8 土・日・祝日を高校生の入館料無料化
土を高校生以上カップルの入館料無料化
- 26.10 天文台の入館者 20 万人達成
- 27.11 リニューアル後の入館者 100 万人達成
- 28.10 天文台が環境大臣賞受賞
- 29. 4 高校生以下の入館料無料化
- 30. 9 道路崩落による通行止めのため、天文台臨時休館

令和

- 2. 3 新型コロナウイルス感染症(COVID-19) 対策のためプラネタリウムを含む一部イベント中止
- 2. 4 新型コロナウイルス感染症(COVID-19) 感染拡大防止のため、国の緊急事態宣言等に応じ臨時休館(4 月 15 日～ 5 月 31 日)
- 3. 3 天文台廃止
- 3. 8 富山市が「まん延防止等重点措置」の対象地域に指定されたこと等により、臨時休館(8 月 18 日～ 9 月 12 日)
- 4. 8 入館者 400 万人達成(16 日)
- 5. 3 プラネタリウム更新(3 回目)、リニューアルオープン(16 日)
- 6. 1 能登半島地震(富山市震度5強) 外壁・内壁補修
- 7. 3 「サイエンス・ラボ」オープン(22 日)

Ⅱ 組織

(1) 組織図 令和7年3月31日現在



職員合計 29人

(2) 職員名簿

職名	氏名	分野	職名	氏名	分野
館長	浦田純一		学芸課長	林忠史	天文学
総務課長	大釜嘉徳		主幹学芸員	坂井奈緒子	植物
主幹(総務課長代理)	島田健太郎		主幹学芸員	藤田将人	恐竜化石
副主幹(庶務係長)	武脇彩子		主幹学芸員	市川真史	物理
主査	高瀬紗央里		主査学芸員	増渕佳子	岩石
//	稲場春樹		主任学芸員	近藤秀作	天文
主事	林伸重		//	岩田朋文	昆虫
会計年度任用職員	廣島真由美		//	清水海渡	脊椎動物
//	鈴木孝彦		学芸員	宮野彩	天文学
//	中村光伸	用務	//	本田実咲	化学
//	橋本秀子	受付	専門官	太田道人	植物
//	針山孝子	//	会計年度任用職員	高畑晃	普及教育
//	吉野雅美	//	//	森山千賀子	普及教育
			//	吉岡翼	古生物
			//	石坂卓也	プラネタリウム
			//	寺崎佑哉	//

(3) 富山市科学博物館協議会

委員（委員は五十音順）

任期：令和5年6月1日～令和7年5月31日

区 分	氏 名	役職名
会 長	青 木 一 真	富山大学学術研究部理学系 教授
副 会 長	牧 野 弥 一	富山市科学博物館友の会 会長
委 員	飯 田 肇	富山県立山カルデラ砂防博物館 学芸課長
//	浦 畑 清 恵	富山市立山田保育所長
//	酒 井 祥 子	富山市小教研理科部会 理科部長
//	日 吉 竜 滋	富山市中教研理科部会 理科部長
//	宮 池 秀 洋	富山県理化学会 副会長
//	安 井 利 行	富山県天文学会 会長
//	山 崎 裕 治	富山大学学術研究部理学系 准教授
//	吉 川 満 博	富山市PTA連絡協議会 顧問

協議会

1 日 時 令和6年7月25日（木）午後3時から

2 場 所 科学博物館多目的学習室

3 議 題 (1) 議題

- ・令和5年度事業報告
- ・令和6年度事業計画
- ・その他

4 主な質疑等 ①入館者数の市内と市外、また県外からの団体等の割合は。

（答）団体の児童生徒は、市内3,434人、市外・県外3,581人。幼稚園・保育所・認定こども園は、市内3,530人、県内市外1,510人、県外0人。県外は石川県が多い。

②1月1日に起きた能登半島地震の被害の中に、「ホルマリン流出」と書いてあるが、それがどうなったのか気がかりである。また、保管体制を今後見直す必要があると思うので、その点について聞きたい。

（答）落下したのは作業中の液浸標本であり、量は微量であったので被害は少なかったが、保管場所にベルトタイプのストッパーやつっぱり棒を取り付けるなどし、保管体制を強化した。

③能登半島地震の後の科学博物館の対応が非常に速やかであったと感じている。速報の展示や講演会を行っており、市民参加の被害調査も行っている。そういう迅速な対応ができた一番の要因は何か。

（答）地質担当の学芸員が、地震の被害状況プロジェクトとしてロビー展を企画した。地元を題材としたものであったことから、人脈等を活かし速やかに開催することができた。震度分布図をじっくり見る人や被害状況を書く人も多く、地震への関心の高さを改めて感じた。

④収蔵品を小中学校に持っていくという活動について説明していただきたい。

（答）「移動ミニ博物館」として、現在45セットを用意し、県内の小中学校に貸し出して好評を得ている。また、学芸員が直接学校に行くことは時間的に難しいので、オンラインによる授業参加も行っている。

⑤科学博物館には348,000点の標本があるが、どのように利用されているのか。

（答）標本の貸し出し・閲覧については、多くの方にご利用いただいております、前述の「移動ミニ博物館」についても、積極的にPRしています。

⑥所蔵標本の活用という点では、すでに公開データベースになっており、インターネット上での活用もできるが、今後は、活用方法を教えるのもよいのではないか。

（答）写真は画像データベースで公開しているが、活用方法についてはこれから検討

していきたい。

- ⑦科学博物館の入館者数を見るとコロナ前よりかなり増加している。全国の施設ではコロナ前の6~7割の回復で喜んでいる状況だが、これだけ増加した要因は何か。また、入館者の中でインバウンドの利用状況はどうか。

(答) 3月にプラネタリウム更新をしたので、4・5月の入館者が多かったと考えている。インバウンドは統計をとっていないが、それほど多くはない状況である。外国から来られた方にも来ていただけるように、PRしていきたい。

- ⑧インバウンドに対して、どのような対応をしていくのか。

(答) パンフレットは外国語のものを用意しており、展示の場所や内容について分かるようにしている。展示更新でどこまで対応していくかが課題であるが、外国語対応については、スマホをかざす時代になってきており、時代に合わせた対応を検討していきたい。

(4) 富山市科学博物館の学校利用推進に関する事務打ち合わせ会

出席者名簿

教育委員会事務局

氏 名	職 名
福 満 弘 信	事務局次長
荒 瀬 誠	教育センター所長

市小学校長会

氏 名	職 名	
嘉 義 政 彦	会 長	蛭川小学校長

市小教研理科部会

氏 名	職 名	
酒 井 祥 子		上滝小学校長
田 村 暁 良		藤ノ木小学校 教諭
上 山 芙 未		蛭川小学校 教諭
赤 尾 純 平		保内小学校 教諭
川 越 雄 太		芝園小学校 教諭
浦 尚 也		奥田北小学校 教諭

学校教育課

氏 名	職 名
河 原 弘 幸	課長
山 崎 貴 志	指導主事

科学博物館

氏 名	所 属	
浦 田 純 一	総務課	館長
林 忠 史	学芸課	学芸課長
大 釜 嘉 徳	総務課	総務課長
島 田 健 太 郎	総務課	主幹・課長代理
坂 井 奈 緒 子	学芸課	主幹学芸員
藤 田 将 人	学芸課	主幹学芸員・課長代理
市 川 真 史	学芸課	主幹学芸員
高 畑 晃	学芸課	学校連携推進担当

1 日 時 令和6年8月23日(金) 午後3時30分から

2 場 所 科学博物館多目的学習室

- 3 協議事項 (1) 「科学博物館の利用学習」事業について
- (2) 学校における科学博物館の利用について
- (3) その他

(5) 「ジュニア科学賞・とやま」選考会議

委員等

選考委員

座長	片岡 弘	富山大学教育学部共同教員養成課程教授
委員	荒瀬 典子	富山県小学校教育研究会 理科部長
//	堀 篤史	富山県中学校教育研究会 理科部長
//	宮原 美充	教育センター 指導主事
//	浦田 純一	科学博物館長

調査協力員

氏名	吉田 貴弘	富山市立宮野小学校 教頭
//	藤井 岳人	富山市立池多小学校 教頭
//	御園 博隆	富山市立蜷川小学校 教諭
//	金田 善広	富山市立速星小学校 教諭
//	佐伯 健太	富山市立大沢野中学校 教諭
//	田中 宏	富山市立新庄中学校 教諭
//	市川 真史	科学博物館 学芸課主幹学芸員
//	本田 実咲	科学博物館 学芸課学芸員
//	坂井 奈緒子	科学博物館 学芸課主幹学芸員
//	藤田 将人	科学博物館 学芸課主幹学芸員（課長代理）

第1回選考会議（選考準備・書面開催）

- 1 議題 (1) 座長の選出について
- (2) 受賞者選考の進め方について
- (3) 第2回会議（一次選考）の進行役選出について

第2回選考会議（一次選考）

- 1 日時 令和6年11月28日（木）午後2時30分から
- 2 場所 科学博物館多目的学習室
- 3 議題 受賞候補者の選定について

第3回選考会議（二次選考）

- 1 日時 令和6年12月5日（木）午後2時30分から
- 2 場所 科学博物館多目的学習室
- 3 議題 受賞者の選定について

Ⅲ 令和 6 年度予算・決算

上段：当初予算額

下段：決 算 額

現年分

(1) 歳入

(単位：千円)

款	項	目	節	当初予算額 (決算額)
使用料及び手数料	使用料	教育使用料	社会教育使用料	16,875 18,555
財産収入	財産運用収入	財産貸付収入	土地建物貸付収入	1,112 1,112
市債	市債	教育債	社会教育債	205,300 136,800
諸収入	雑入	雑入	雑入	392 2,165
歳入合計				223,679 158,632

(2) 歳出

(単位：千円)

款	項	目	節	当初予算額 (決算額)
教育費	社会教育費	科学博物館費	報酬	23,994 25,274
			給料	62,889 68,907
			職員手当等	45,555 51,193
			共済費	24,605 26,375
			報償費	305 332
			旅費	1,701 1,596
			需用費	35,421 34,794
			役務費	1,781 1,430
			委託料	176,465 143,813
			使用料及び賃借料	8,097 7,263
			工事請負費	77,700 52,481
			備品購入費	245 242
			負担金補助及び交付金	165 146
歳出合計				458,923 413,846

繰越明許費 ※令和 6 年能登半島地震によるもの

(1) 歳入

(単位：千円)

款	項	目	節	予算額 決算額
市債	市債	教育債	社会教育債	0 2,900
繰越金	繰越金	繰越金	前年度繰越金	0 26

(2) 歳出

(単位：千円)

款	項	目	節	予算額 決算額
教育費	社会教育費	科学博物館費	委託料	0 2,200

Ⅳ 観覧者及び施設利用の状況

(1) 観覧者 年間 114,568 人、1 日平均 336 人、1 日最高 1,589 人（令和 6 年 11 月 3 日）

(2) 月別・区分観覧状況

（単位：人、日）

区 分	個 人													団 体								合 計	特 別 展 示	日 数
	大人		幼 児	小 学 生	中 学 生	高 校 生	高 齢 者	障 害 者 保 持 者 手 帳	孫とおでかけ		パ3 日 間 共 ス 通	パ年 間 共 ス 通	カ ッ プ ル	大 人	小 人	小・中・特別支援学校			幼・保・ こども園					
	有 料	無 料							引 率	児童・生徒						引 率	園 児							
										市内								市・外 県・外						
4	1,382	31	960	925	166	128	89	303	368	454	37	617	481	473	0	24	0	180	10	38	6,666	0	30	
5	1,696	78	1,089	1,061	139	96	100	380	316	376	36	581	649	619	16	69	27	890	33	161	8,412	0	31	
6	1,733	114	1,476	1,291	102	75	75	270	295	326	16	766	763	592	0	13	64	0	396	2,483	10,850	0	30	
7	2,386	133	1,869	1,874	155	139	32	541	612	698	16	986	799	801	286	32	92	180	103	596	12,330	799	27	
8	4,272	223	2,599	3,483	470	285	0	678	1,517	1,949	56	1,017	1,242	1,696	229	0	0	0	0	0	19,716	3,322	31	
9	2,223	71	1,771	1,254	92	122	151	347	425	479	16	865	747	756	0	98	755	392	11	49	10,624	122	27	
10	1,329	42	907	713	129	90	74	322	246	280	15	505	530	534	40	154	1,110	655	107	597	8,379	0	31	
11	1,319	1,040	1,395	1,194	89	74	94	360	244	267	21	513	860	475	0	151	1,255	324	27	133	9,835	0	30	
12	1,006	33	989	635	61	64	47	247	246	276	15	515	468	341	0	14	65	18	0	0	5,040	0	24	
1	1,169	84	1,064	659	67	73	52	227	287	295	5	524	494	375	0	3	0	3	5	39	5,425	0	24	
2	1,341	147	1,185	730	44	83	46	163	248	264	10	551	595	422	0	9	21	5	26	121	6,011	0	25	
3	2,351	248	2,116	1,478	148	286	60	464	540	650	33	831	1,016	770	31	3	0	63	28	164	11,280	0	31	
計	22,207	2,244	17,420	15,297	1,662	1,515	820	4,302	5,344	6,314	276	8,271	8,644	7,854	602	570	3,389	2,710	746	4,381	114,568	4,243	341	
計 割合	94,316 82.3%													8,456 7.4%		6,669 5.8%			5,127 4.5%		114,568 100%			

(3) 最近 5 か年の観覧状況

（単位：人）

年度	観覧総数	個 人	団 体	小・中・特別支援学校	幼・保・こども園
R2	66,049	57,153	2,485	4,980	1,431
R3	89,015	75,079	3,733	6,544	3,659
R4	99,948	84,111	6,278	4,811	4,748
R5	129,875	107,964	9,163	7,708	5,040
R6	114,568	94,316	8,456	6,669	5,127

(4) 幼稚園・保育所・認定こども園の観覧状況

（単位：人、園（所））

区 分		引率者	園 児	計	園（所）
県 内	市 内	535	3,119	3,654	107
	市 外	211	1,262	1,473	43
県 外		0	0	0	0
合 計		746	4,381	5,127	150

(5) 小学校・中学校・特別支援学校の観覧状況

(単位：人、校)

区 分			引率者	児童生徒	計	学 校
小学校	県内	市 内	248	3,252	3,500	71
		市 外	153	1,743	1,896	39
	県 外		11	98	109	2
	計		412	5,093	5,505	112
中学校	県内	市 内	10	161	171	5
		市 外	28	451	479	10
	県 外		18	291	309	4
	計		56	903	959	19
特別支援学校	県内	市 内	47	47	94	6
		市 外	46	50	96	6
	県 外		9	6	15	1
	計		102	103	205	13
市内計			305	3,460	3,765	82
市外（県内）計			227	2,244	2,471	55
県外計			38	395	433	7
合 計			570	6,099	6,669	144

(6) 無料開館日の観覧者数

(単位：人)

内 容	該当日	人 数
文化の日	11月3日	1,589
合 計		1,589

(7) 施設の利用状況

(単位：回)

室 名	館主催	貸 室	合 計
多目的学習室・科学教室	12	21	33

(8) 観覧料等収納状況

(単位：円)

観覧券	個 人	530 円	×	22,202 人	=	11,767,060	15,065,320
	団 体	420 円	×	7,853 人	=	3,298,260	
追加プラネ券	個 人	210 円	×	207 人	=	43,470	54,870
	団 体	150 円	×	76 人	=	11,400	
その他	特別展	100 円	×	4,243 人	=	424,300	424,300
共通パスポート	(按分額)						2,770,199
観覧料計							18,314,689
施設使用料							22,650
合 計							18,337,339

V 施設概要及び利用案内

- (1) 所在地 富山市西中野町一丁目 8 番 31 号
- (2) 敷地面積 2,687.24 m²
- (3) 構造 鉄骨鉄筋コンクリート造地下 1 階、
地上 3 階、塔屋 2 階
- (4) 延床面積 6,791.20 m²
- (5) 開館 昭和 54 年 11 月
- (6) 利用案内

〈開館時間〉

午前 9 時から午後 5 時まで
(入館は午後 4 時 30 分まで)

〈休館日〉

年末年始(12 月 28 日から翌年 1 月 4 日まで)
臨時休館日

〈観覧料〉

(単位：円)

区分	個人	団体	小・中・特別支援学校	その他		
	大人		引率教員	高校生以下	高齢者	障害者手帳等保持者
観覧料	530	420	無料			
追加プラネ券	210	150				

- ・観覧料は展示及びプラネタリウム 1 回の観覧を含む(特別展は別料金の場合あり)。2 回以上プラネタリウムを観覧する場合は追加プラネタリウム券が必要。
- ・高校生以下、富山市内在住の 70 歳以上の高齢者、身体障害者手帳、療育手帳及び精神障害者保健福祉手帳の交付を受けている方とその介護者は無料。
- ・高校生以上のカップルは土曜日無料。

〈プラネタリウム投影時間〉

土・日曜日、祝休日

平日

第 1 回	9:45	第 1 回	9:45
第 2 回	11:00	第 2 回	11:00
第 3 回	12:15	第 3 回	13:30
第 4 回	13:30	第 4 回	15:30
第 5 回	14:45		
第 6 回	16:00		

- ・平日第 1 回、第 2 回は団体専用時間とし、定員まで複数団体の観覧が可能(学校長期休暇期間を除く)
- ・投影途中の入場はできない。

〈サイエンスライブ〉

- ・学芸員が科学実験ショーや工作、展示解説等を実施。
- ・毎週土・日曜日、祝休日
- ・10:30～、14:00～(各回約 15 分)

〈施設使用料〉

(単位：円)

種別	使用区分による金額		
	午前	午後	昼間
サイエンス・ラボ	830	990	1,820
多目的学習室 (AB いずれか)	830	990	1,820
多目的学習室 (AB 両方使用)	1,660	1,980	3,640

午前 (9:00～12:00)

午後 (13:00～17:00)

昼間 (9:00～17:00)

- ・冷暖房時は所定の使用料の 20%相当額を増額する。
- ・使用申込みは団体に限る。科学博物館の使用目的に反する場合は許可しない。

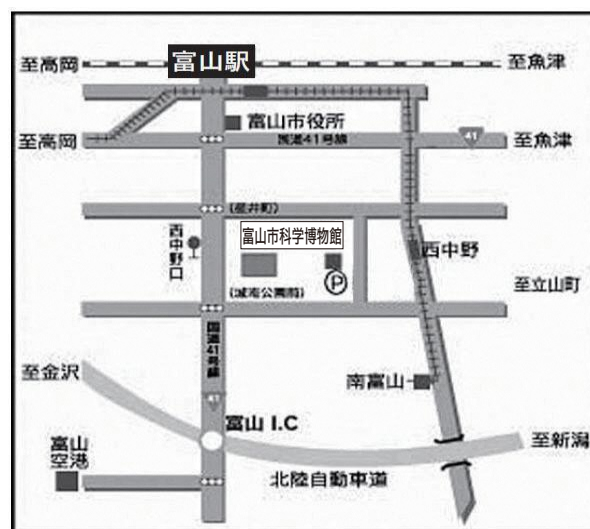
(7) 交通機関

①市内電車

富山駅から南富山駅前行、西中野電停下車
徒歩約 7 分

②バス

富山駅から猪谷・辰尾団地・笹津・福沢・
月岡西緑町・国際大学・国立高専前行など。
西中野口バス停下車正面



2 調査研究事業

調査研究活動は博物館活動の基礎であり、その成果は展示や普及活動等に活用される。富山の自然の状況と人との関わりを考えることを目標として、各分野でそれぞれテーマを設定し研究活動を行っている。成果は、富山市科学博物館研究報告第48号の発行、関係する学会における発表や論文投稿、展示（企画展・特別展やロビー展示）、館主催の市民向け研究発表会等で市民に公開した。なお、館発行の普及出版物は、「5 普及教育事業」に記載した。

I 研究体制

自然史系ならびに理工系の10分野の計16人

分 野	氏 名 (Name)	職 名
岩石分野	増渕 佳子 (Masubuchi Yoshiko)	主査学芸員
地史・古生物分野	吉岡 翼 (Yoshioka Tasuku)	会計年度任用職員
恐竜化石分野	藤田 将人 (Fujita Masato)	主幹学芸員・課長代理
植物分野	坂井奈緒子 (Sakai Naoko)	主幹学芸員
	太田 道人 (Ohta Michihito)	専門官
昆虫分野	岩田 朋文 (Iwata Tomofumi)	主任学芸員
脊椎動物分野	清水 海渡 (Shimizu Kaito)	主任学芸員
天文分野	林 忠史 (Hayashi Tadashi)	学芸課長
	近藤 秀作 (Kondo Shusaku)	主任学芸員
	宮野 彩 (Miyano Aya)	学芸員
	森山千賀子 (Moriyama Chikako)	会計年度任用職員
	石坂 卓也 (Ishisaka Takuya)	会計年度任用職員
	寺崎 佑哉 (Terasaki Yuya)	会計年度任用職員
物理分野	市川 真史 (Ichikawa Shinji)	主幹学芸員
化学分野	本田 実咲 (Honda Misaki)	学芸員
生涯学習分野	高畑 晃 (Takabatake Akira)	会計年度任用職員

II 分野別研究

■ 岩石分野

富山県内の火山岩類の記載岩石学的調査
富山県産鉱物の調査

■ 地史・古生物分野

県内産化石基礎調査
考現古生物学的基礎調査
北陸地域の新第三系層序に関する研究

■ 恐竜化石分野

富山県内産恐竜化石に関する研究
県内産中生代の化石調査

■ 植物分野

富山県の植物多様性調査
立山ルート沿線の植生復元に関する研究
富山県の蘚苔類相調査
水生蘚苔類の分布・生態学的研究

■ 昆虫分野

富山県の昆虫相調査
北陸地方を主とした希少水生昆虫の生息調査
甲虫目コガシラミズムシ科の分類学的研究

■ 脊椎動物分野

富山県の小型哺乳類相調査
富山県の鳥類相調査
富山県のコウモリ類の生息状況に関する研究

■ 天文分野

白萩隕鉄と流星刀に関する研究
流星に関する観測と研究

■ 物理分野

測定技術に関する調査と研究
展示装置に関する研究
科学的要素を含む体験的工作に関する研究
蜃気楼の研究

■ 化学分野

分析技術に関する調査と研究

Ⅲ 博物館学的研究

展示事業に関するもの

- 1 科学や自然領域の効果的な展示技術に関する研究
- 2 プラネタリウムの技術と運営の研究
- 3 全天周映像の撮影編集システムの開発

普及教育事業に関するもの

- 1 市民各層のニーズに適合した行事の開発
- 2 友の会、ボランティア運営に関する研究
- 3 学校教育との関連、特に博物館展示の効果的利用ならびに児童生徒の科学応用力増進に関する研究

調査研究事業に関するもの

- 1 博物館刊行物の効果的な情報公開の研究

収集保管事業に関するもの

- 1 資料データベースの利用に関する研究
- 2 資料の収集と保管に関する研究

情報公開事業に関するもの

- 1 インターネットによる効果的な情報公開の研究

管理運営に関するもの

- 1 博物館の連携に関する研究
- 2 博物館の行事参加者の安全に関する研究
- 3 博物館実習の効果的企画・運用に関する研究

Ⅳ 「研究報告第 48 号」の発行

令和 6 年 7 月 5 日発行、部数 540 部

原 著

布村 昇：

北陸地方で発見された陸産等脚目甲殻類の 1 新種の記載，数種の再記載および北陸初記録種等

藤田将人・岩田朋文・吉岡 翼・清水海渡・太田道人：
富山市山岳域自然調査報告（2023）

岩田朋文・吉岡 翼：

飛騨山脈の高天原および竜晶池で 2023 年に確認されたトンボ類

岩田朋文：

富山県におけるクマゼミの既知記録整理と抜け殻を含む追加記録

澤田研太・岩田朋文：

2020 年の確認例を含む富山県におけるシタベニハゴロモの追加記録

岩田朋文：

富山県におけるマツヘリカメムシの初記録

岩田朋文・桐山 哲・早瀬裕也：

富山県で 2023 年に確認されたツヤハダゴマダラカミキリの記録一覧

短 報

酒井佑輔・藤田将人・吉岡 翼：

富山県黒部川源流域の下部白亜系手取層群より産出した植物化石

坂井奈緒子：

富山県におけるイトゴケの記録

布村 昇：

従来オスだけで記載されてきたコツブムシ科（等脚目甲殻類）3 種のメス個体の外部形態

岩田朋文：

常願寺川河川敷でウスバカマキリを複数確認

岩田朋文：

富山市におけるアカギカメムシの採集例

岩田朋文：

富山県における外国産クワガタムシ（アルキデスヒラタクワガタ）の野外での発見例

清水海渡：

有峰湖周辺地域で確認したコウモリ類（2023）

南部久男・清水海渡・田島木綿子・山田 格：

富山湾における鯨類の記録（2022・2023 年）

資 料

平澤 聡：

富山県東部立山町に分布する下～中部中新統黒瀬谷層から産出した生痕化石群集（補遺）

二橋 亮・二橋弘之・新堀 修・不破光大・岩田朋文：
富山県のトンボ（2023 年記録）
清水海渡・高畑 晃：
湯浅純孝鳥類・哺乳類標本コレクション
南部久男・清水海渡：
富山市におけるツキノワグマの出没記録（2022 年）
近藤秀作・宮野 彩：
富山市科学博物館における流星観測記録（2023 年度）

V 執筆文書

1 学術論文

研究報告第 48 号に記載した論文を除く

* は査読付学術雑誌

- 4.22：吉岡 翼（松岡 篤らと共著）：
Projecting radiolarian three-dimensional graphics onto planetariums: the "Radiolarium" project. FORMA, 39(1). *
6. 5：岩田朋文（内田大貴らと共著）：埼玉県におけるチビミズムシ亜科（ミズムシ科）の追加記録と既知記録の整理。寄せ蛾記 191 号。
6. 6：太田道人（山下寿之らと共著）：立山アルペンルート外来植物 15 年間の変化とこれからの課題。立山ルート緑化研究委員会年報（令和 5 年度）Vol.22.
6. 8：坂井奈緒子（古木達郎らと共著）：日本の貴重なコケの森「立山室堂ならびに弥陀ヶ原一帯」。蘚苔類研究 13 巻 2 号。*
6. 9：岩田朋文（上村 清と共著）：日本産蚊類幼虫の採集記録と日本列島の蚊相について。衛生動物 75 巻。*
- 6.10：岩田朋文（神尾大地と共著）：富山県における外来種ウスグモスズ（直翅目，ヒバリモドキ科）の初記録。ニッチェ・ライフ 12 巻。
- 6.12：岩田朋文（惣名 実らと共著）：富山県におけるヤツボシカミキリとニセヤツボシカミキリの記録。月刊むし 646 号。
- 6.12：岩田朋文（加藤敦史らと共著）：新潟県および富山県におけるアサヒナコマルガムシの初記録。さやばねニューシリーズ 56 号。*
7. 2：坂井奈緒子：日本の絶滅危惧種。富山県立山の亜高山域に生育する絶滅危惧 5 種。蘚苔類研究 13 巻 4 号。*
7. 3：岩田朋文（森山泰成と共著）：富山県におけるキマダラカメムシの初記録。月刊むし 649 号。
7. 3：太田道人（吉田めぐみらと共著）：外来植物モニタリング調査。令和 6 年度立山植生モニタリング調査成果報告書。立山植生研究会。

2 読み物

- 6.11：近藤秀作：富山市科学博物館におけるプラネタリウムを用いた多目的な取り組み。第 38 回天文教育研究会集録。
7. 1：岩田朋文：学芸員の徒然草 外来種ウスグモスズを富山県から初めて記録しました。富山市科学博物館友の会会報 157 号。
7. 3：近藤秀作：全国プラネタリウム研修会 2024・富山 実施報告。日本プラネタリウム協議会会誌 23 号。

Ⅵ 学会などでの発表

氏 名	開催日	演 題	学会名（場所）
近 藤 秀 作	6. 8.20	富山市科学博物館におけるプラネタリウムを用いた多目的な取り組み	第38回天文教育研究会 in 福井(2024年年会)（ハピリンホール）
市 川 真 史	6. 9.21	磁石の力「見えるボックス」を作ろう	「'24 青少年のための科学の祭典」魚津大会・第31回「おもしろ科学実験 in 富山」（新川文化ホール）
吉 岡 翼 (石坂雅昭と共同発表)	6. 9.16 ～19	海浜環境において観察された融雪に伴う砂のまくり上げ現象「融雪砂まくり」	雪氷研究大会（2024・長岡） (アオーレ長岡)
増 渕 佳 子 (横山 光らと共同発表)	6.10.28	第2回火山実験研究交流会の実施と今後の展望	2024年度日本火山学会秋季大会(北海道立道民活動センター)
岩 田 朋 文	6.12. 1	富山県におけるクマゼミの生息状況	令和6年度 富山県生物学会研究発表会（富山市科学博物館）
市 川 真 史	7. 1.30	常設展の体験展示と、特別展での振り子スネークとモンキーハンティング展示	第15回全国理工系学芸員展示研究大会（大阪市立科学館）
増 渕 佳 子	7. 2.13	展示を介した被災体験の共有～2024年能登半島地震の例～	全国科学博物館協議会第32回研究発表大会 (兵庫県立人と自然の博物館)

Ⅶ 科学研究費補助金による研究等

令和6年度は無し。

Ⅷ 表彰

令和6年度は無し。

IX 国内の研修や学会などへの参加

参加者	開催日	研修題名	場 所
近 藤 秀 作	6. 6. 3 ～ 6. 5	全国プラネタリウム大会 2024・横浜	はまぎん こども宇宙科学館
林 忠 史	6. 7. 1 ～ 7. 3	日本公開天文台協会（JAPOS）第 18 回 全国大会	ギャラクシティ
増 渕 佳 子	6.10.19	日本火山学会 2024 年度秋季大会公開 講座親子で火山実験『知りたい！北海 道の火山いろいろ』	札幌市青少年科学館
林 忠 史 近 藤 秀 作 宮 野 彩	6.11. 5	令和 6 年度日本プラネタリウム協議 会（JPA）北陸プラネタリウムワーキ ンググループ 第一回研修会	富山市科学博物館
近 藤 秀 作	6.11.11 ～ 11.13	JGSS2024(日本ジャイアントスクリーン 協会フィルムフェスティバル)	山梨県立科学館
太 田 道 人	7. 2.27	中部山岳国立公園における気候変動に 関するコンソーシアム	富山大学
増 渕 佳 子	7. 2.13 ～ 2.14	全国科学博物館協議会第 32 回研究発 表大会	兵庫県立人と自然の博物館

X 研究発表会等

1 科学セミナー

令和 6 年度は無し。

2 研究発表会

日 時：令和 7 年 3 月 8 日 13：30 ～ 15：30

場 所：富山市科学博物館 多目的学習室

参加人数：35 人

発表者	タイトル
藤 田 将 人	
吉 岡 翼	令和 6 年度 富山市山岳域自然調査報告
岩 田 朋 文	
岩 田 朋 文	科学博物館所蔵 湯浅純孝カミキリムシコレクションについて
増 渕 佳 子	展示を介した被災体験の共有-2024 年能登半島地震の例-
吉 岡 翼	富山で観察された砂丘カルメラ：冬の砂地にできる凸型の足跡

3 展示事業

特別展を1回、企画展を8回（うち1つは令和5年度事業）、ロビー展を11回（うち1つは令和5年度事業）開催した。

I 常設展示

■エントランス展示

氷河時代の富山に生息していたナウマンゾウの実物大模型と骨格標本を比較展示している。

■とやま・時間のたび

富山県の地形が形成されてきた歴史を地質年代順に紹介している。また、富山市大山地域で発見された日本最大の恐竜足跡化石露頭面についても展示している。

■とやま・空間のたび

富山県の地形の特徴である標高3,000mの立山連峰から水深1,000mの富山湾までを高山、山地、河川、丘陵・平野、海の5つのゾーンに分け、それぞれの自然の特徴や人との関わりについて展示している。

■宇宙へのたび

太陽系の惑星や隕石の特徴を体感的に学べる展示をしている。また、宇宙望遠鏡が撮影した天体映像コーナーや、最新の星空情報などを紹介している。

■おもしろ実験ひろば

楽しい実験装置をととして、理工的な側面から科学の面白さが体験できる展示を行っている。

■とやま・ノーベル賞受賞者コーナー

富山市にゆかりのある4人のノーベル賞受賞者、田中耕一氏、利根川 進氏、梶田隆章氏、本庶 佑氏の研究を紹介している。

■ジュニア科学賞・とやまコーナー

ジュニア科学賞の受賞者とその研究内容を紹介するパネルを展示し、毎年更新している。令和7年2月14日からは、第22回の受賞者3名を紹介している。

II 特別展

■たのしむ重力 ～落ちる ひっばる そして、曲げられる♪～

体験を中心にした当館独自企画の特別展で、重力について「落体の法則」「万有引力の法則」「一般相対性理論」の3つの視点から、「振り子スネーク」など体験型展示10点、展示品6点などを通して紹介した。期間中の来場者は20,852人。

期間： 令和6年7月20日（土）～9月1日（日）

場所： 2階特別展示室

主催： 富山市科学博物館

協力： 愛媛県総合科学博物館、株式会社村田製作所、富山大学理学部物理学教室

担当： 市川真史、近藤秀作



III 企画展

■富山市科学博物館・富山県立山カルデラ砂防博物館共同企画展「立山さんろく 自然の魅力」

日本一の落差をもつ称名滝、“立山杉”の巨樹群を育む美女平、方位磁石が狂う尖山など、立山山麓部の自然観察場所とその魅力を紹介した。

期間： 令和6年3月2日（土）～5月19日（日）

場所： 2階特別展示室

主催： 富山市科学博物館

担当： 太田道人、清水海渡、本田実咲

■令和5年度富山県科学展覧会入賞作品展-アイデア浮かぶ科学の広場-

令和5年度の富山県科学展覧会で入賞した、富山市内の小中学校の児童生徒の作品32点を展示した。

期間：令和6年6月1日(土)～7月7日(日)

場所：2階特別展示室

主催：富山市科学博物館

担当：高畑 晃、森山千賀子

■第45回SSP展「自然を楽しむ科学の眼2024-2025」富山展

日本自然科学写真協会(SSP)の会員が撮影した自然に関する写真70点と動画14作品を展示した。同協会の巡回展示。

期間：令和6年9月11日(水)～10月9日(水)

場所：2階特別展示室

主催：富山市科学博物館

協力：一般社団法人日本自然科学写真協会

担当：太田道人、増渕佳子

■富山市科学博物館・富山県立山カルデラ砂防博物館共同企画展「立山さんろく 自然の魅力」<立山会場>

期間：令和6年10月5日(土)～12月15日(日)

場所：富山県立山カルデラ砂防博物館

主催：富山県立山カルデラ砂防博物館

担当：太田道人、坂井奈緒子

■第83回「富山県科学展覧会」

県内の児童・生徒が取り組んだ科学研究から、優秀作品91点を展示した。

期間：令和6年10月17日(木)～10月21日(月)

場所：2階特別展示室・1階多目的学習室

主催：公益社団法人 富山県教育会、富山県理科教育振興会

担当：高畑 晃、森山千賀子

■企画展「ふしぎいっぱい自然と科学」

身近な自然や現象の中にあるたくさんの不思議を体験により発見できるよう、「くらべてみよう!」や「かいてみよう!」など15の体験コーナーで構成した。

期間：令和6年10月26日(土)～12月8日(日)

場所：2階特別展示室

主催：富山市科学博物館

担当：増渕佳子、岩田朋文

■第32回「私の身近な自然展」

身近な自然への驚きや感動を絵と文で表現した市内小学生の作品を募集し、154点の作品を展示した。自然への関心を高め、豊かな感性を育むことを目的とした。

期間：令和6年12月21日(土)～令和7年2月16日(日)

場所：2階特別展示室

主催：富山市科学博物館

担当：高畑 晃、森山千賀子

■企画展「日本星景写真協会写真展一星の風景2025—」

日本星景写真協会の会員により、富山をはじめ、世界各地で撮影された星景写真52点を展示した。

期間：令和7年3月15日(土)～5月18日(日)

場所：2階特別展示室

主催：日本星景写真協会、富山市科学博物館

担当：近藤秀作、宮野 彩

Ⅳ ロビー展示

■能登半島地震 被害調査プロジェクト

能登半島地震の身の回りの被害の実態を明らかにし、記録として残すため、来館者に用紙で報告していただく展示コーナーを設置した。

期間：令和6年2月17日(土)～7月15日(月)

場所：2階ロビー

主催：富山市科学博物館

担当：増渕佳子

■富山と世界のギフチョウたち

日本固有種であるギフチョウとその近縁種の標本、写真、解説パネルを展示した。

期間：令和6年4月13日(土)～6月2日(日)

場所：2階ロビー

主催：富山市科学博物館

担当：岩田朋文

■流星刀

県内で発見された鉄いん石を材料に作られた珍しい日本刀である流星刀を展示した。

期間：令和6年4月27日(土)～5月26日(日)

場所：1階ロビー

主催：富山市科学博物館

担当：林 忠史、近藤秀作、宮野 彩

■昆虫学芸員の研究紹介

富山市科学博物館研究報告 48 号で発表した研究成果を展示した。

期間： 令和 6 年 7 月 13 日（土）～ 11 月 24 日（日）
場所： 2 階ロビー
主催： 富山市科学博物館
担当： 岩田朋文

■標本をつくってみよう

日頃の自然観察を一步深める標本づくりを勧めるもので、標本づくりの意義や手法をパネル及び実物標本で紹介した。

期間： 令和 6 年 7 月 20 日（土）～ 9 月 8 日（日）
場所： 2 階ロビー
主催： 富山市科学博物館
担当： 岩田朋文、坂井奈緒子、吉岡 翼

■移動ミニ博物館 ツキノワグマ

当館で貸し出している展示セットで、ツキノワグマの生態をパネルや標本で分かりやすく紹介した。

期間： 令和 6 年 9 月 14 日（土）～ 12 月 1 日（日）
場所： 2 階ロビー
主催： 富山市科学博物館
担当： 森山千賀子

■富大 学生フォーミュラカーがやってきた

学生フォーミュラ車両を解説動画などと共に展示した。

期間： 令和 6 年 10 月 26 日（土）～ 11 月 10 日（土）
場所： 1 階ロビー
主催： 公益社団法人 自動車技術会中部支部、富山大学フォーミュラプロジェクト
担当： 市川真史

■能登半島地震 あの日、私たちの周りで起きたこと

「能登半島地震 被害調査プロジェクト」の報告展として開催。来館者から寄せられた各地の被害状況などをまとめ、パネルと Google マップで展示した。

期間： 令和 6 年 12 月 14 日（土）～ 令和 7 年 1 月 19 日（日）
場所： 2 階ロビー
主催： 富山市科学博物館
担当： 増渕佳子

■富山県ナチュラリスト協会写真展

県ナチュラリスト協会の会員が撮影した自然の魅力を伝える写真 21 点を展示した。

期間： 令和 7 年 1 月 25 日（土）～ 2 月 11 日（火）
場所： 2 階ロビー
主催： 富山市科学博物館
協力： 富山県ナチュラリスト協会
担当： 太田道人

■富山と世界のギフチョウたち

日本固有種であるギフチョウとその近縁種の標本、写真、解説パネルを展示した。

期間： 令和 7 年 3 月 1 日（土）～ 6 月 1 日（日）
場所： 2 階ロビー
主催： 富山市科学博物館
担当： 岩田朋文

■とやまの土で光る泥団子を作るぞ！

富山市内で採取した土で光る泥団子作りに取り組む、博物館ボランティア「泥団子倶楽部」の活動を紹介した。

期間： 令和 7 年 3 月 29 日（土）～ 6 月 29 日（日）
場所： 2 階ロビー
主催： 富山市科学博物館
担当： 増渕佳子

V その他

■展示オリエンテーリング

展示物を見るポイントを示し、来館者が楽しみながら館内を順に回ることができるように、4 種類のクイズ形式のシートおよび解説シートを設置した。令和 7 年 3 月に「くらべてシリーズ」1 種類のシートを追加した。

期間： 令和 6 年 4 月 1 日（月）～ 令和 7 年 3 月 31 日（月）
場所： 1 階ロビー
主催： 富山市科学博物館
担当： 森山千賀子

■質問掲示板「自然や科学のこと、何でも聞いてみるがですけど」

来館者が自然や科学についての質問を記入した用紙を掲示板に貼り、学芸員が回答することでコミュニケーションを図った。

期間： 令和 6 年 4 月 1 日（月）～ 9 月 13 日（金）
場所： 2 階ロビー
主催： 富山市科学博物館
担当： 増渕佳子

4 資料収集事業

郷土の自然に関する総合的な理解を深めるため、標本や資料を幅広く収集した。資料点数は令和6年度に16,236点増加し、合計533,326点となった。収集された標本は、分野毎に定められた規則に則って収蔵庫に配架しており、学術研究や展示、普及等に活用している。

I 標本の受け入れ

1 岩石分野 (合計) 192 点

(1)購入標本	なし
(2)収集標本	25
(3)寄贈標本	167 点
鉱物・岩石標本	若林忠嗣 68 点
砂	中野 俊 31 点
	中川達夫 6 点
	近藤直門 1 点
火山豆石	金子一夫 1 点
玉髄	斎藤利一 1 点
館員 (増淵佳子、藤田将人、高畑 晃、寺崎佑哉、近藤秀作)	59 点

2 古生物分野 (合計) 64 点

(1)購入標本	なし
(2)収集標本	63 点
※うち恐竜事業収集標本	63 点
(3)寄贈標本	1 点
鯨類化石	葉室俊和 1 点

3 植物分野 (合計) 941 点

(1)購入標本	なし
(2)収集標本	845 点
(3)寄贈標本	96 点
年輪円盤	加藤輝隆 5 点
(タテヤマスギ等)	
キシマゴケ	秋山弘之 1 点
ウラジロ	荒木 健 3 点
エゾタンポポ	今井春継 1 点
ハナカザリゼリ	亀村兼介 1 点
セイヨウヤブイチゴ	川端栄子 1 点
オランダフウロ	木原賀代 5 点
サトウキビ茎	大野博美 1 点
ハンノキの幹円盤	黒部河川事務所 1 点
セリ科植物	山橋貞信 2 点
シダ植物雑種標本	眞崎 久 29 点
クロヤツシロラン	金澤宏之 1 点
クロチク開花個体	野崎浩一 1 点
館員 (太田道人、坂井奈緒子、本田実咲)	44 点

4 昆虫分野 (合計) 13,407 点

(1)購入標本	なし
(2)収集標本	152 点
(3)寄贈標本	13,255 点
シタベニハゴロモ	伊藤理恵 1 点
富山県産昆虫類	井出哲哉 773 点
キマダラカメムシ	遠藤 衛 3 点
ケスジドロムシとアサヒナコマルガムシ	岩田泰幸 17 点
マツヘリカメムシ	久保絹江 1 点
日本と東南アジア産昆虫類	宮原真樹 10,150 点
ツヤハダゴマダラカミキリ	桐山 哲 15 点
ツヤハダゴマダラカミキリ	金澤宏之 1 点
シタベニハゴロモ	古屋光朔 1 点
富山市産昆虫類	荒木 健 5 点
ラミーカミキリ	佐藤真樹 1 点
日本産昆虫類	山本幸子 952 点
タイワンタケクマバチ	小又節子 1 点
チュウゴクアミガサハゴロモ	新村翔介・龍士 6 点
ジュウシチネンゼミ	内田晶子 75 点
富山市産昆虫類	森山泰成 47 点
オオクワガタ	森沢信彦 1 点
富山県産昆虫類	神尾大地 13 点
ナガクチキムシの一種	惣名 実 1 点
富山県産昆虫類	早瀬裕也 44 点
富山市産昆虫類	村井仁志 1,036 点
ツヤハダゴマダラカミキリ	村上芳哉 3 点
ツヤハダゴマダラカミキリ	樽井宥武 1 点
富山市産昆虫類	中林みぎわ 6 点
石川県産セミ抜け殻	町口聡南・慧祐 3 点
ミヤマクワガタ	長嶺 諒 1 点
ヒメボタル	南部治夫 4 点
ミヤマクワガタ	朴木英治 1 点
富山県産昆虫類	木村知晴 6 点
マイマイカブリ	野口高志 1 点
シタベニハゴロモ	和田好史 1 点
アサヒナコマルガムシとキマダラカメムシ	澤田研太 2 点
館員 (岩田朋文、坂井奈緒子、清水海渡、本田実咲、林 忠史)	82 点

5 無脊椎分野	(合計) 1,631 点
(1)購入標本	なし
(2)収集標本	なし
(3)寄贈標本	1,631 点
富山県布施川水系産無脊椎動物	
布村昇	77 点
日本産等脚類	布村昇 79 点
石川県および滋賀県産陸生等脚類	
布村昇	1,417 点
日本産等脚類以外の無脊椎動物	
布村昇	44 点
サドヤマトガイ	
柏木健司・長谷部秀平	1 点
館員 (吉岡 翼)	13 点

6 脊椎動物分野	(合計) 1 点
(1)購入標本	なし
(2)収集標本	なし
(3)寄贈標本	1 点
ケアシノスリ	倉田昭一 1 点
7 物理分野	なし
8 化学分野	なし
9 天文分野	なし

Ⅱ 蔵書

1. 単行本

受入方法	R6 年度増加数	累 計
購 入	43	4,751
寄贈・交換	24	9,634
合 計	67	14,385

2. 雑 誌

受入方法	R6 年度増加数	累 計
購 入	146	12,273
寄 贈	54	17,290
交 換	博物館関係・学会・大学・研究機関	638 41,050
	国外の研究機関	14 6,728
合 計	852	77,341

Ⅲ 収蔵標本数の推移（過去5年間分）

年度 分野	R2	R3	R4	R5	R6	R6 年度 増加数
岩 石	15,702	15,737	15,822	16,322	16,514	192
古 生 物	22,914	23,244	24,255	24,482	24,546	64
植 物	126,310	126,516	127,471	127,725	128,666	941
昆 虫	111,959	113,051	119,536	120,057	133,464	13,407
無脊椎動物	174,066	174,567	176,719	178,705	180,336	1,631
脊 椎 動 物	46,678	47,516	49,143	49,143	49,144	1
物 理	118	118	118	118	118	0
化 学	482	482	482	482	482	0
天 文	46	55	55	56	56	0
計	498,275	501,286	513,431	517,090	533,326	16,236

Ⅳ 標本等データベースのデータ数（令和6年3月現在）

分野	標本データ件数	うち、GBIF/S-Net 公開データ件数	
		データセット名	件数
岩石・鉱物	14,744	TOYA-R	0
古生物	15,410	TOYA-Fo	1,000
維管束植物	121,615	TOYA-Sp, Pt	107,309
コケ植物	7,861	TOYA-Br	4,402
大型菌類	2,149	TOYA-Fu	0
昆虫	61,301	TOYA-Ji	32,166
貝類	102,767	TOYA-Mo	85,972
無脊椎甲殻類	23,783	TOYA-Cr	16,233
その他	3,606	TOYA-Iv, Ar	1,960
脊椎動物	13,747	TOYA-Pi, Am	9,554
計	366,983		258,596

Ⅴ 収蔵標本類の利用

区分	題名	動物 標本	植物 標本	岩石化 石標本	昆虫 標本	その他	写真類
企画展	立山さんろく自然の魅力（本館）	26	78	7	798	3	186
	立山さんろく自然の魅力 （立山カルデラ砂防博物館会場）	2	70	7	200	3	85
	ふしぎいっぱい自然と科学	18	10	8	31		28
ロビー展	標本をつくってみよう		3		6	20	10
	流星刀					3	
	富山と世界のギフチョウたち （6. 4. 27 ～ 6. 6. 2）				40		10
	富山と世界のギフチョウたち （7. 3. 1 ～ 7. 6. 1）				100		10
	解説！スギの切り株物語（4日間）		1				10
サイエンス ライブ	解説！公園の木の実（4日間）		2				3
	解説！紅葉のひみつ（4日間）		2				10
	観察！光る石（6日間）			10			
	実験！火山噴火（4日間）			1			
	体験！火打ち石（1日）			3			
	工作！鉱物のかたち（1日）			3			
	解説！企画展「立山さんろく自然 の魅力」—昆虫編—（2日間）				10		5
	解説！企画展「立山さんろく自然 の魅力」—植物編—（2日間）		2				2
	解説！富山のクマゼミ（2日間）						10
	解説！富山の外来昆虫（4日間）						20
	解説！富山のトンボ（2日間）						20
	解説！富山のスズメバチ（1日間）						20
	解説！かくれる昆虫に せる昆虫 （2日間）						20
	解説！富山のカマキリ（1日間）						20
	夏休み恐竜探検隊			2			
	カタクリとギフチョウの猿倉山				10		
	初夏の美女平				10		
とやまの 自然探検	アキグミ実る常願寺川		1			1	5

その他・	標本の名前を調べる会&自由研究 のまとめ方相談会	10		
普及教育	サイエンス・ラボ オープニング イベント	1	10	20

Ⅵ 地球規模生物多様性情報機構 (GBIF) へのデータ登録

世界の生物多様に関するデータが地球規模生物多様性情報機構 (GBIF) によって整備されつつあり、インターネットを通じて自由にアクセスできるようになっている。日本からは独立行政法人 国立科学博物館、国立環境研究所、国立遺伝学研究所が窓口となって国内の博物館・大学等に収蔵されている標本情報を取りまとめてアップロードしている。令和6年度は、当館から昆虫1,000件、植物800件の標本データを提供し、当館の公開標本データの総数は、258,596件となった(上表)。データはGBIFの日本ノードJBIF (<https://gbif.jp/>) とサイエンスミュージアムネットS-Net (<https://science-net.kahaku.go.jp>) で検索することができ、分布図を表示することもできる。

Ⅶ 主な標本類貸し出し

貸出先	期間	品 名	点 数
糸魚川ジオパーク協議会 ジオサイトの魅力発信実行委員会	6. 2. 1 ～ 8. 3. 31	黒部川花崗岩	3
京都大学総合博物館	6. 7. 3 ～ 6. 9. 3	流星刀	1
射水市新湊博物館	7. 1. 30 ～ 7. 4. 30	平天儀図解	1

Ⅷ 収蔵標本の閲覧

閲 覧 者	閲 覧 月	回数	閲覧資料
佐 藤 卓	5. 9	1	植物標本 カバノキ科カバノキ属ほか (R5 年度分補遺)
石井 直浩	5.12	1	植物標本 イネ科コウボウムギ類 (//)
池谷 祐幸	6. 1	1	植物標本 バラ科ナナカマド属ほか (//)
佐 藤 卓	6. 2	1	植物標本 クスノキ科クロモジ属 (//)
栗原 良輔	6. 4	1	無脊椎動物標本 多足類全般
川端 一旗	6. 9	1	昆虫標本 チョウ目ガ類全般
早川 宗志	6. 7	1	植物標本 ラン科、ミソハギ科、ヤマノイモ科ほか
石澤 岩央	6.12	2	植物標本 ラン科スズムシソウ属
大原 隆明	7. 1	1	植物標本 カヤツリグサ科、マツムシソウ科、ブナ科ほか
村井 良徳	7. 2	1	植物標本 アブラナ科ヤマハタザオ属、イヌナズナ属
澤田 研太	7. 2	5	昆虫標本 コガネムシ科、カミキリムシ科
澤田 昭芳	7. 2	2	昆虫標本 チョウ目アゲハチョウ上科

渡 辺 護	7. 2	2	昆虫標本	ハエ目全般
布 村 昇	7. 2	5	無脊椎動物標本	等脚目全般
島野 智之	7. 3	1	無脊椎動物標本	ダニ類全般

IX 害虫防除

1 くんじょうなど

	くんじょう			冷凍殺虫	使用防虫剤
	春期	秋期	標本専用		
日程	6. 5. 20	6. 9. 2 ~ 3	6. 9. 12 ~ 19	随時	常時
場所	3 階収蔵庫	3 階収蔵庫、地下 (収蔵庫及び各部屋)	専門業者の くんじょう庫	-30℃の 冷凍庫 10 日間	地下収蔵庫
薬剤	ミラクン GX	ブンガノン(地下収蔵庫)、 ミラクン GX	エキヒューム S	なし	ナフタレン、 パラジクロロベンゼン

2 環境調査

	春期	秋期
日程	6. 4. 16 ~ 5. 20	6. 9. 2 ~ 10. 8
場所	館内全域	
方法	粘着トラップ（虫害調査）、 エアースンプラー（菌害調査）	粘着トラップ（虫害調査）
結果	注意種チャタテムシ類が館内各所で散見された。空中浮遊真菌は調査地点全域で多かった。	注意種チャタテムシ類が館内各所で散見された。
対策	チャタテムシ類対策は清掃や除湿を徹底する。真菌が多かった理由は不明であるが、通常区域から収蔵庫などの清潔区域へ物品を移動する際には、真菌胞子の侵入防止と除湿を心掛ける。	

5 普及教育事業

市民の多様な学習要求に対応し、参加する人がそれぞれの興味をより深められるよう、館内外で多様な行事を開催した。行事のタイトル数は84、開催のべ日数は227日となった。市内小・中学校対象のオンライン授業参加や市民からの質問への対応、自然や科学に関する冊子やリーフレット発行などを引き続き行った。

I 館単独で主催した行事（外部講師を依頼したものを含む）

1 館外での行事

(1) とやまの自然探検

野外に出かけて自然を感じ、科学的な見方を学ぶ場として実施した。毎回約20～40人の参加者に楽しんでいただいた。参加者からは「どのような質問にも答えてもらえる行事」と好評を博している。

参加人数：のべ97人（3回）

行事名	実施日	内 容（担当）	対 象	参加人数
カタクリとギフチョウの猿倉山	6. 4. 7	里山を散策し、カタクリ群落で花を観察し、ギフチョウを捕獲してじっくりと解説した。 （清水海渡、岩田朋文、太田道人、坂井奈緒子）	小1～一般	20
初夏の美女平	6. 5. 19	ブナ林の新鮮な空気の中を歩き、植物や鳥、昆虫などを観察した。 （岩田朋文、太田道人、坂井奈緒子）	小1～一般	42
常願寺川の石ころ観察会	6. 6. 2	常願寺川原で石の観察を行う予定だったが、雨天のため中止した。（増渕佳子、高畑 晃）	4才～一般	-
昆虫採集に行こう！	6. 9. 22	常願寺川河川敷で、虫採り網を使ってトンボやバッタを採集し、網の使い方や生息する昆虫について解説する予定であったが、雨天のため中止した。 （岩田朋文、高畑 晃）	小1～一般	-
アキグミ実る常願寺川	6. 11. 4	常願寺川の河原にアキグミが生育する理由を解説し、アキグミ摘みを楽しんでいただいた。 （坂井奈緒子、太田道人）	4才～一般	35
野鳥の声を聞きに行こう！	7. 3. 16	呉羽山公園・都市緑化植物園で野鳥の観察を行う予定だったが、雨天のため中止した。 （本田実咲、高畑 晃）	小1～一般	-

2 館内での行事

(1) サイエンスライブ

展示や標本の解説、時節にあわせた生き物の紹介、物理あるいは地学に関する実験演示など、観覧者が科学に対する興味と関心をもつことを目的として実施した。

実施日：土日祝日の10:30～、14:00～（各回15分程度、のべ105日）

場所：ロビー、展示室、城南公園、サイエンス・ラボ

参加人数：のべ5,933人

タイトル	実施日	内容（担当）	参加人数
解説！富山の恐竜化石	6. 5.11	富山県から発見された恐竜の足跡化石などを解説した。 （藤田将人）	40
	6. 5.12		46
	6. 7. 6		42
	6. 7. 7		105
	6. 9.28		30
	6. 9.29		46
	6.12.21		14
	6.12.22		64
	7. 1. 5		70
解説！富山にいたゾウ	6. 7.20	富山に昔生きていたゾウについて解説した。（藤田将人）	24
	6. 7.21		77
解説！ 企画展「立山さんろく 自然の魅力」—植物編—	6. 4.27	山麓に生えるコケ植物や苔庭に使われる種類を紹介した。（坂井奈緒子）	26
	6. 4.28		33
観察！公園の小さな植物	6. 6.22	足元の草、木につくコケをさがし、観察と発見を楽しんだ。（坂井奈緒子）	18
	6. 6.23		25
観察！とぶタネ	6. 9.14	タネを観察し、折り紙で模型をつくってとばした。（坂井奈緒子）	40
	6. 9.15		84
観察！公園の木の実	6.10.26	見ごろの木の実を観察した。（坂井奈緒子）	18
	6.10.27		25
解説！はっぱくらべ	6.11. 9	公園の木の葉の形や色づき方、つき方をくらべた。（坂井奈緒子）	12
	6.11.10		3
解説！ 草や竹でつくった生活用品	7. 2. 1	素材の植物とカゴやはきものなどの生活用品を紹介した。（坂井奈緒子）	32
	7. 2. 2		53
	7. 3. 1		41
	7. 3. 2		52
工作！ ふわとびコイノボリ	6. 5. 6	ふわっと飛ぶコイノボリ型の飛行機を折り紙で作った。（市川真史）	120
分解！ ボンボン時計のしくみ	6. 6. 1	ボンボン時計を分解し、振り子や歯車の働きを見ながら、鐘が鳴る仕組みなどを紹介した。（市川真史）	33
	6. 6. 2		88

解説！ 電磁石とリニアモータ	6. 7.15 7. 3. 8 7. 3. 9	展示装置を使って電磁石の性質を紹介し、リニアモータが動く仕組みを赤青メガネを使い説明した。(市川真史)	106 47 52
解説！体の中の輪切りが 見えるCTのしくみ	6.10. 5 6.10. 6	体の断面を撮影できるX線CTスキヤナの仕組みを、パズルや模型を使って解説した。(市川真史)	26 46
実験！光で回る輪ゴムの 車輪！？	6.11. 3 6.11. 4	温度で長さが変わる輪ゴムの性質を応用して回る車輪の実演をし、その仕組みを実験により解説した。(市川真史)	154 61
解説！ 振り子のサンドアート	7. 1.25 7. 1.26	振り子の性質を実験を通して紹介し、「振り子のサンドアート」の模様が描かれるしくみを解説した。(市川真史)	60 67
企画展「立山さんろく 自然の魅力」—岩石編—	6. 4. 6 6. 4. 7	企画展の展示解説として、立山さんろくにある山やその地形について紹介した。(増渕佳子)	9 2
観察！光る石	6. 5.18	暗闇で光る鉱物や身の回りのものを紹介した。 (増渕佳子)	25
	6. 5.19		51
	6. 9. 7		47
	6. 9. 8		93
	6.11.30		65
実験！火山噴火	6.12. 1	重曹とクエン酸を使い、地下のマグマが発泡することで噴火が起こることを実験により紹介した。(増渕佳子)	54
	6. 6.15		66
	6. 6.16		71
	6. 7.13 6. 7.14		69 雨天中止
工作！鉱物のかたち	6. 8.12	形が特徴的な鉱物（黄鉄鉱・方解石・蛍石）を観察し、同じ形のペーパークラフトを楽しんだ。(増渕佳子)	65
体験！火打ち石	7. 1.13	石を使って火を起こす「火打ち石」を体験した。 (増渕佳子)	90
企画展「立山さんろく 自然の魅力」—昆虫編—	6. 5. 4 6. 5. 5	企画展の展示解説として、立山さんろくの豊かな森にすむ昆虫について紹介した。(岩田朋文)	44 26
解説！富山のクマゼミ	6. 6.29 6. 6.30	日本最大のセミであるクマゼミについて、標本や写真を使って紹介し、富山県内の生息状況を解説した。 (岩田朋文)	52 82
解説！富山の外来昆虫	6. 7.27	もともと富山にすんでいなかったのに、人間が運んできたために富山にすみはじめた昆虫を紹介した。 (岩田朋文)	54
	6. 7.28		41
	6.11. 2		51
	6.11. 3		119
解説！富山のトンボ	6. 8.24 6. 8.25	富山県のトンボ類の特徴やトピックスを紹介した。 (岩田朋文)	66 40

解説！富山のスズメバチ	6. 9.23	秋に個体数が増えるスズメバチの種類や生態を解説した。(岩田朋文)	80
解説！ かくれる昆虫にせる昆虫	7. 1.11 7. 1.12	風景にとけこんだり、有毒昆虫に似せたりして、敵から食べられないように工夫する昆虫を紹介した。(岩田朋文)	37 34
解説！富山のカマキリ	7. 2.24	富山県にすむさまざまな種類のカマキリを写真などで紹介した。(岩田朋文)	100
解説！ 企画展「立山さんろく 自然の魅力」—動物編—	6. 4.13 6. 4.14	企画展に展示されている動物について解説した。(清水海渡)	29 16
昼間の天体観察をしよう	6.11. 3	城南公園で、望遠鏡を使って昼間に見える星を観察した。(近藤秀作)	460
実験！ムラサキキャベツ の色水あそび	6. 4.29 6. 5. 3 7. 3.29 7. 3.30	ムラサキキャベツの色水が酸性、アルカリ性で変化することを実験で演示した。(本田実咲)	78 75 98 106
実験！ 水性ペンのふしぎアート	6. 6. 8 7. 2.11 7. 3.20	水性ペンの色をペーパークロマトグラフで分け、できあがった模様を楽しんだ。(本田実咲)	50 80 101
実験！化学反応でふうせんをふくらませよう！	6. 8.31 6. 9. 1	クエン酸と重曹でふうせんを膨らませた。(本田実咲)	100 90
実験！うずのふしぎ	6.10.12 6.10.13	ペットボトルでトルネードをおこした。(本田実咲)	48 56
実験！ 使い捨てカイロのしくみ	7. 1.18 7. 1.19	使い捨てカイロはどうして温くなるのか実験をとおして紹介した。(本田実咲)	59 75
解説！ 企画展「立山さんろく 自然の魅力」—植物編—	6. 4.20 6. 4.21	スギの巨木の根本に穴が空いている理由や植物の多様な生き方について解説した。(太田道人)	18 18
解説！スギの切り株物語	6. 8.10 6. 8.11 7. 2. 8 7. 2. 9	150年前のタテヤマスギの切株を観察しながら、このスギの過去・現在・未来の姿を解説した。(太田道人)	30 45 5 16
解説！公園の木の实	6. 9.21 6. 9.22 6.10.19 6.10.20	大きな松ぼっくりをつけた「ヒマラヤスギやプロペラ型の実をつけているカエデなどを観察した。(太田道人)	16 10 12 22
解説！紅葉のひみつ	6.11.16 6.11.17 6.12.14 6.12.15	公園の木々の紅葉を楽しみ、葉が色づく意味についても考えた。(太田道人)	23 21 16 19

実験！石けん古生物学	7. 2. 15 7. 2. 16	きれいな化石が見つかるノジュールという石のでき方と石けんの意外な関係を実験を通して紹介した。(吉岡 翼)	54 62
実験！ エッキーでミニ液状化	6. 8. 17 6. 8. 18 6. 9. 16	地震で地面が液体のようになる液状化現象を簡単な実験をとおして紹介した。(吉岡 翼)	65 55 100
光の手品！？ 偏光のはなし	6. 11. 23 6. 11. 24 7. 3. 15 7. 3. 16	偏光という光の不思議な現象について実験を交えながら解説した。(吉岡 翼)	90 52 43 78
体験！石材から化石をみつけよう	6. 6. 9 6. 12. 7 6. 12. 8	ビルの壁などに使われている石材から化石を探した。(吉岡 翼)	49 44 36

(2) 科学教室

身近にある材料や事象から科学のおもしろさを体験してもらう場として実施した。

参加人数：のべ 101 人 (5 回)

行事名	実施日	内 容 (担当)	対 象	参加人数
小さなコケ植物の観察会	6. 6. 9	生育している様子を公園で観察した後、顕微鏡で葉や細胞を観察し、コケ植物の特徴を学んだ。(坂井奈緒子)	小 4 ～一般	10
自分だけのプラネタリウムを作ろう	6. 8. 25	自分だけのプラネタリウムを作りながら仕組みを学び、段ボールドームに星を映して楽しんだ。(近藤秀作、宮野 彩)	小 3 ～一般	29
モーターをつくろう	6. 12. 15	モーターを手作りしながら、動く仕組みについて理解を深めた。(市川真史)	小 4 ～ 6 年	20
貝殻でアクセサリを作ろう	7. 1. 26	貝類について紹介し、ナミマガシワなどの貝殻を使ってストラップとブローチを作った。(吉岡 翼)	小 4 ～一般	21
どんぶり de プラネタリウム～星座の絵を描いてみよう～	7. 2. 23	発泡スチロール製のどんぶりの内側に描いた絵をプラネタリウムドームいっぱい投映して楽しんだ。協力：富山大学芸術文化学部辻合研究室。(近藤秀作、宮野 彩)	小 1 ～一般	21

(3) 星空観察会

① 定期観察会

天体の観察をとおして宇宙への興味と理解を深めるため、天体望遠鏡や双眼鏡を用いた観察会を行った。自由参加とし、雨天・降雪時には天文現象について館内で解説会を行った。(担当：近藤秀作、宮野彩、林忠史、石坂卓也、森山千賀子、寺崎佑哉)

実 施 日：毎週土曜日 (50 日)

時 間：19:30 ～ 21:00 (R6.4.6 ～ 9.28、R7.3.1 ～ 3.29)

18:30 ～ 20:00 (R6.10.5 ～ R7.2.22)

場 所：城南公園、休憩室

参加人数：1219 人

月	日	参加人数	天候	曇天時の解説の内容	月	日	参加人数	天候	曇天時の解説の内容
4月	6	15	曇	皆既日食 しし座 北極星	10月	5	8	曇	紫金山アトラス彗星 十三夜 秋の四辺形
	13	22	晴			12	60	晴	
	20	9	曇			19	2	雨	
	27	21	晴			26	37	晴	
5月	4	45	晴	(なし)	11月	2	4	曇	アンドロメダ銀河 エチオピア王家 変光星
	11	20	晴			9	57	晴	
	18	36	曇			16	30	曇	
	25	25	晴			23	6	曇	
6月	1	26	曇	春の大曲線と春の大三角 ヘルクレス座 夏至 星食・惑星食	12月	30	2	曇	土星食 火星接近 すばる、冬至
	8	31	曇			7	3	雨	
	15	16	曇			14	32	晴	
	22	5	曇			21	5	雨	
	29	38	晴			11	16	晴	
7月	6	18	晴	(なし)	1月	18	35	晴	へびの星座 ぎょしゃ座
	13	29	曇			25	8	雨	
	20	48	曇			1	8	曇	
	27	36	晴		2月	8	3	曇	富山の和名 冬のダイヤモンド
3	71	晴	15	28		晴			
10	87	曇	22	2		曇			
8月	17	43	曇	スピカ食 伝統的七夕 ペルセウス座流星群	3月	1	32	晴	春分の日 オリオン座 ふたご座
	24	34	曇			8	8	曇	
	31	5	晴			15	9	曇	
	7	31	曇			22	22	曇	
9月	14	75	晴	秋分の日 中秋の名月 大きい星座小さい星座		29	5	曇	
	21	7	雨						
	28	4	曇						

② 特別観察会

話題の天文現象等に合わせた観察会を実施した。(担当：近藤秀作、宮野彩、林忠史、石坂卓也、森山千賀子、寺崎佑哉)

場 所：城南公園、休憩室

参加人数：268人（5タイトル、5日）

行事名	実施日	時 間	内 容	人数	天候
大型連休対応	6. 5. 5	19:30～21:00	春に見られる天体の観察のほか、見えている星などを解説した。	38	晴
七夕の星を見よう	6. 7. 7	19:30～21:00	七夕や夏の大三角など夏の星座の観察と解説を行った。	46	曇
中秋の名月	6. 9. 17	19:30～21:00	月や土星などの観察とおして月見の風習などについて紹介した。	132	晴

土星食を見よう	6.12. 8	18:00 ~ 20:00	土星食の観察を予定していたが天候不良のため土星食や火星の接近について紹介した。	5	曇
接近中の火星を見よう	7. 1.12	19:00 ~ 20:00	月や火星などの観察と火星について紹介した。	47	曇

(4) ボランティアによるイベント

① 科学絵本の読み聞かせ

ボランティア有志により、絵本の内容に合わせた簡単な実験や観察をセットにした科学絵本の読み聞かせを行った。(担当：増渕佳子)

実施日：令和6年10月5日(土)

場所：2階ロビー

対象：観覧者

参加人数：23人

(5) 夏休みの自由研究へのアドバイス

① 自由研究のすすめ方相談会

自由研究のテーマ設定や課題に対する科学的なアプローチ方法についてアドバイスをを行った。どの分野にもまんべんなく質問があったが、具体的な実験方法の相談よりも、漠然とした興味や関心事をどうやって自由研究に結びつけたらよいかといった相談が多かった。(担当：森山)

実施日：令和6年7月6日(土)、7日(日)、13日(土)、14日(日)、15日(月・祝)、20日(土)、21日(日)、27日(土)、28日(日)

場所：図書・質問コーナー

受付件数：32件

担当学芸員：吉岡 翼、坂井奈緒子、林 忠史、藤田将人、市川真史、増渕佳子、岩田朋文、近藤秀作、宮野 彩、太田道人、本田実咲

② 標本の名前を調べる会&自由研究のまとめ方相談会

外部講師と学芸員が各々の専門分野に関する自由研究の質問・相談に対応した。どの学年・分野にもかたよりなく相談があり、ホームページを見て県外からや帰省中の来館者もあった。

(担当：森山)

実施日：令和6年8月18日(日)

場所：多目的学習室

受付件数：33件

外部講師：金子一夫、瀧本和敏、布村 昇、澤田研太、高山茂樹

担当学芸員：吉岡 翼、坂井奈緒子、林 忠史、藤田将人、市川真史、増渕佳子、岩田朋文、近藤秀作、宮野 彩、太田道人、本田実咲

(6) 夏休みクイズラリー

展示室の各所に置かれたクイズに答えながら展示を深く観察することを目的として実施した。子ども向けの「がんばれライ太コース」と一般向けの「いくぞ！ライじいコース」を行った。(担当：本田実咲、吉岡 翼)

実施日：令和6年7月25日(木)～8月23日(金)の平日(のべ21日間)

場所：展示室

参加人数：952人(がんばれライ太コース748人、いくぞ！ライじいコース204人)

(7) サイエンスライブまつり

多目的学習室および科学博物館前で、学芸員によるサイエンスライブを3タイトル実施した。内容の詳細はサイエンスライブの項目を参照。(担当：岩田朋文)

日 時：令和6年11月3日(日) 10:30～15:45

場 所：多目的学習室、城南公園

参加人数：のべ733人

(8) サイエンス・ラボ オープニングイベント

令和6年度に整備した「サイエンス・ラボ」の公開にあわせて、外部講師と学芸員による科学実験や解説イベントを実施した。(担当：坂井奈緒子、市川真史)

場 所：サイエンス・ラボ

実 施 日：令和7年3月22日(土)・23日(日) 10:00～16:30(各タイトル所要時間は約30分間)

外部講師：斎藤吉彦(元大阪市立科学館館長)、月僧秀弥(富山大学教育学部准教授)

参加人数：のべ373人

令和7年3月22日(土)

タイトル	開始時間	内 容 (担当)	人数
つばさをもつ実の飛び方	10:00	3種類の実の種子の付き方、飛び方の違いを実物や模型で観察した。(坂井奈緒子)	5
化学発光～いろいろな色～	11:00	ルミノール発光などの実演を行い、身の回りの光るものを解説した。(本田実咲)	32
太陽系の大きさを実感してみよう!	11:50	地球、太陽、宇宙の大きさを身近なスケールに縮めて解説した。(宮野 彩)	41
外来カミキリムシを見比べよう	12:45	外来種ツヤハダゴマダラカミキリと在来種ゴマダラカミキリの見分け方等を解説した。(岩田朋文)	17
世界一かんたんブーメラン	14:00 16:00	ブーメランやコマ等の回るものの実演を行い、回転と歳差運動について解説した。(講師 斎藤吉彦)	45 30
発明!? 光で回る輪ゴムの車輪!	15:00	輪ゴムの不思議な性質を、輪ゴムを用いた車輪で実験しながら解説した。(市川真史)	25

令和7年3月23日(日)

タイトル	開始時間	内 容 (担当)	人数
世界一かんたんブーメラン	10:00 12:45	ブーメランやコマ等の回るものの実演を行い、回転と歳差運動について解説した。(講師 斎藤吉彦)	28 28
音の不思議を調べよう	11:00 14:00	ストロー笛などを用いて振動を感じてもらいながら、音、音階の仕組みについて解説した。(講師 月僧秀弥)	32 21
光の色を分けてみよう	11:50	電灯やモニター等の身の回りの光を、分光器を使って分け、色のまざり方を解説した。(近藤秀作)	18
ミクロの世界をのぞいてみよう	15:00	小さな生き物の不思議な形を解説し、身近な素材をつかった顕微鏡作りを紹介した。(吉岡 翼)	11
重曹とクエン酸の火山ふん火大実験	16:00	火山噴火のしくみを、重曹とクエン酸を用いた実験をとおして解説した。(増渕佳子)	40

Ⅱ 他機関・団体と共同で開催した行事

1 館外での行事

(1) 科学教室「气象台へ行こう～天気の実験と予報のしごと～」

大雨警報に伴う、气象台業務優先のため行事は中止となった。(担当：市川真史)

実施日：令和6年7月30日(火)(午前と午後の2回実施)

2 館内での行事

(1) 高校生が作ったロボットとあそぼう

ラジコン操作や手こぎ発電機によってロボットを動かす体験をととして科学技術への関心を高め、高校生と小学生が触れ合う場を創出した。(担当：市川真史、本田実咲)

実施日：令和6年5月25日(土)・26日(日)

場所：2階ロビー

対象：観覧者

協力：学校法人 不二越工業高等学校情報機械科

参加人数：622人

(2) 親子で挑戦！ロボットプログラミング教室

レゴマインドストーム EV3 を使い、パソコンでプログラミングしてレゴロボットを動かし、コース上の黒い線に沿っていかに速く走れるかプログラムの作成に挑戦することで、論理的思考力等を育んだ。(担当：市川真史)

実施日：令和6年6月15日(土)

場所：多目的学習室

対象：小学4～6年生の児童と保護者(2人一組)

協力：一般社団法人 富山県情報産業協会

参加人数：23人

(3) 古川宇宙飛行士ミッション報告会パブリックビューイング

国際宇宙ステーションから地球へ帰還した古川宇宙飛行士による、ミッションの一般向け報告会の配信を上映した。(担当：林 忠史)

実施日：令和6年6月23日(日) 13:00～15:30

場所：休憩室

配信主催：宇宙航空研究開発機構(JAXA)

参加人数：23人

(4) 特別展関連イベント「大きな竹ブランコに乗ってみよう」

高さ4.5mと2.5mの二つの竹ブランコに乗り比べ、ブランコのひもの長さによる揺れ方の違いを体験してもらうことで、振り子や重力への興味と特別展への関心を高めた。(担当：市川真史)

実施日：令和6年7月27日(土)・28日(日)

場所：城南公園 芝生広場

対象：一般

協力：NPO法人 Bamboo saves the earth

参加人数：408人

(5) 実演！なぜ倒れない？ バランスじょうずなロボットたち

自転車に乗る「ムラタセイサク君」と一輪車に乗る「ムラタセイコちゃん」、ボールの上で互いの距離を保ってダンスをする「村田製作所チアリーディング部」の実演を行い、それらの仕組みについて解説した。(担当：本田実咲、市川真史)

実施日(人数)：令和6年8月3日(土)・4日(日)(各日3回、計321人)

令和7年2月22日(土)・23日(日)(各日3回、計467人)

場 所：多目的学習室、2階特別展示室

対 象：観覧者

協 力：株式会社富山村田製作所

参加人数：788人

(6) 富山水素エネルギー促進協議会連携イベント「実験！水素でロケットを飛ばそう」

水素を使った実験をとおして水素の性質やエネルギー利用について学んだ。(担当：本田実咲、市川真史)

期 間：令和6年8月20日(火)(午前3回と午後3回実施)

場 所：多目的学習室

対 象：小学生とその保護者

映像提供：一般社団法人富山水素エネルギー促進協議会

参加人数：97人

(7) 実験講座 富山大学プロジェクト授業作品展「さわって！たのしむデジタルアート」

富山大学芸術文化学部の学生が製作したデジタルアート展示イベントを行い、学生の展示作品製作能力の向上とともに子どもたちの科学やデジタル技術への興味関心を高めた。(担当：市川真史)

実施日：令和6年9月22日(日)・23日(月・休)

場 所：1階ロビー・2階ロビー

対 象：観覧者

主 催：富山大学芸術文化学部

参加人数：727人

(8) 富大 学生フォーミュラカーがやってきた 運転席着座体験

富山大学フォーミュラプロジェクトの学生フォーミュラ車両の運転席に座って、スクリーンに流れるコース走行動画を見ながらハンドルを動かせる疑似運転体験を行い、ものづくりへの興味を高めた。(担当：市川真史、本田実咲)

実施日：令和6年11月10日(土)

場 所：1階ロビー

対 象：観覧者

主 催：公益社団法人 自動車技術会中部支部

協 力：富山大学フォーミュラプロジェクト

参加人数：64人

(9) ロボットカー・プログラミング

ロボットカーをScratchベースの環境でプログラムして操作し、クランク型のコースを進み、ゴール位置で止まる課題にチャレンジし、論理的思考力等を育んだ。(担当：市川真史、本田実咲)

実施日：令和6年11月10日(土)(午前と午後の2回実施)

場 所：多目的学習室

対 象：小学3～6年生

主 催：公益社団法人 自動車技術会中部支部

参加人数：31人

(10) 小型エンジン分解組立

50cc バイクのエンジンを分解して動く仕組みを調べ、組み付けして元に戻し、ものづくりの面白さを体験した。(担当：市川真史、本田実咲)

実施日：令和6年11月10日(土)(午前と午後の2回実施)

場所：科学教室

対象：小学3～6年生

主催：公益社団法人自動車技術会中部支部

参加人数：41人

(11) 実験講座「ワクワク！科学のふしぎを体験しよう！」

富山大学教育学部の授業の一環として、学生が企画した実験や体験イベントを行い、学生の科学教育指導能力の向上とともに子どもたちの理科への興味関心を高めた。(担当：本田実咲、市川真史)

実施日：令和6年10月14日(月・祝)

場所：2階特別展示室

対象：観覧者

主催：富山大学教育学部

参加人数：146人

(12) 実験講座「ふゆのかがくの実験室 with 富大生」

富山大学教育学部の授業の一環として、学生が企画した実験や体験イベントを行い、学生の科学教育指導能力の向上と子どもたちの理科への興味関心を高めた。(担当：本田実咲、市川真史)

実施日：令和6年12月21日(土)、22日(日)

場所：2階ロビー及び多目的学習室

対象：観覧者

主催：富山大学教育学部

参加人数：222人

Ⅲ レファレンス (質問への回答)

一般からの自然科学に関する質問に学芸員が回答するサービスを行っている。件数は557件であった。特に動物分野の質問が多かった。

1 分野別件数

質問分野	科学博物館						天文台 (H9～R1)	合計
	植 物	動 物	地 学	天文気象	理 工	その他	天文・ その他	
R6	83	261	120	56	31	6	—	557
累計	10,008	14,157	4,820	5,211	2,398	879	7,007	44,480

累計は、S54 開館以来の合計

2 方法別件数

質問方法	口 頭	電 話	文書・Fax	e-mail	HP (科学の質問 Web 受付)	オンライン 授業	質問 掲示板	合計
R6	250	127	1	100	73	2	4	557
累計	19,121	20,092	2,469	1,925	773	14	86	44,480

累計は、S54 開館以来の合計

3 月別分野別件数

月	植物	動物	地学	天文・気象	理工	その他	計
4月	8	11	6	6	1	0	32
5月	8	27	5	6	0	1	47
6月	8	36	14	1	5	0	64
7月	11	34	11	4	4	1	65
8月	9	41	28	4	12	1	95
9月	8	38	11	2	3	0	62
10月	8	20	13	19	0	0	60
11月	8	10	5	4	2	0	29
12月	6	7	5	2	1	1	22
1月	1	10	12	2	2	0	27
2月	4	4	0	4	1	1	14
3月	4	23	10	2	0	1	40
合 計	83	261	120	56	31	6	557

IV 移動ミニ博物館

動物・植物・地質・天文などに関する標本や写真、解説パネルからなる貸し出し展示セットを40セット用意している（詳細は当館ウェブサイト参照）。富山県内の小中学校を中心に貸し出しており、市内小・中学校へは片道を当館が運搬している。（担当：森山千賀子、高畑 晃）

1 貸出先・期間

(1) 貸し出し 14 か所 48 件

貸出先	小・中学校	高等学校	幼稚園 保育所	博物館	市施設	図書館	教 育 委員会	その他	合計
施設数	10	0	0	1	1	1	0	1	14
件 数	43	0	0	1	1	1	0	2	48

(2) 貸し出し日数 1,077 日

貸出期間	1週間以内	2週間以内	1か月以内	1か月超
件 数	0	2	42	4

2 貸し出したセット・回数

No.	セット名	回数
2	化石～大昔の生き物を探そう～	2
4	水辺で探ろう トンボの世界	1
8	宇宙へのいざない	2
13	火山と地震	3
15	雪の結晶	1
20	恐竜たちの足どりを追って	1
22	野外で注意したい生き物	1
24	富山湾の生き物たち	1
26	立山の自然	1
33	バッタやコオロギとその仲間たち	1
25	石ころから探る常願寺川の特徴	4

No.	セット名	回数
41	富山の昆虫	4
42	コケの世界へでかけよう コケってなあに？	1
46	ふしぎな気象現象	2
47	富山県のチョウ	1
48	身近なハチたち	1
50	花とハナバチ	1
53	「ムシ」の体を比べてみよう	2
54	山と気象	2
55	木をくらべよう	1
56	ミクロファンタジー	2
58	どんぐりをひろってくらべよう	2

36	校庭の雑草	2
37	立山 / 雪模様	2
39	天体の動き	3

59	ひつつき虫	1
60	ツキノワグマ	2
61	みてみて！身近にくらす鳥	2

V 普及出版物

1 普及雑誌「とやまと自然」

富山の自然や最新の科学、博物館活動に関する話題などを紹介する冊子を発行した。県内小中学校などへ配付した。当館ウェブサイトでも閲覧できる。各号 1,500 部発行。（編集：本田実咲、太田道人）

巻号（通算）	発行日	掲載内容	執筆者
第47巻 夏の号(185号)	6. 7. 1	特別展「たのしむ重力」展示解説	市川真史
第47巻 秋の号(186号)	6.10. 1	外来種の淡水魚を食べて在来種の淡水魚を守る	川上僚介
第47巻 冬の号(187号)	7. 1. 5	立山美女平・ブナ坂の自然観察	太田道人 岩田朋文 高畑 晃
第48巻 第1号(188号)	7. 3.31	富山湾のヤドカリ	木村知晴

2 リーフレット「とやまサイエンストピックス」

身近な自然や科学に関する話題を紹介した。隔月に各 2,000 部印刷し、市内小・中学校や来館者に配付した。当館ウェブサイトでも公開している。（編集：高畑 晃）

No.	発行月	題 名	執筆者
547	6. 4 月	展示紹介 クックソニア	藤 田 将 人
548	6. 6 月	富山にもすみつく？ クマゼミ	岩 田 朋 文
549	6. 8 月	銅の多い所に生えるホンモンジゴケ	坂 井 奈 緒 子
550	6.10 月	立山で増えている外来植物 アライドツメクサ	太 田 道 人
551	6.12 月	火星が接近中！	宮 野 彩
552	7. 2 月	使い捨てカイロのしくみ	本 田 実 咲

3 リーフレット「星空だより」

各季節に見られる星空や天文現象を紹介した。毎月発行。各 2,000 部印刷し、市内小・中学校や来館者に配布した。（作成：石坂卓也）

No.	号	主な内容
161	2024 年 4 月号	ヘラクレスに退治された怪物たちの星座
162	2024 年 5 月号	ミザール・アルコルを見てみよう！
163	2024 年 6 月号	月と土星がくつつきそう
164	2024 年 7 月号	天の川を見てみよう
165	2024 年 8 月号	流れ星を見てみよう（ペルセウス座流星群）
166	2024 年 9 月号	お月見しよう！
167	2024 年 10 月号	もうひとつのお月見
168	2024 年 11 月号	ギリシャ神話に登場する秋の星座たち

169	2024 年 12 月号	流れ星を見てみよう（ふたご座流星群）
170	2025 年 1 月号	惑星が勢ぞろい！
171	2025 年 2 月号	金星が明るい！
172	2025 年 3 月号	月がすばるをかくす

Ⅵ 学校による博物館利用への協力

1 教員のための博物館の日

博物館の学習資源の具体的な活用方法と楽しみ方を紹介し、理科の指導力を高め、博物館を身近に感じてもらうことを目的として実施した。9 回目。実物を手にしての観察や五感を働かせる実験など、博物館の機能を活用した科学プログラムを提供した。定員 20 人。（担当：近藤秀作、太田道人）

開催日：令和 6 年 8 月 1 日（木）

対象：富山県内の小学校に勤務する教諭および臨任講師

主催：富山県教育委員会（富山県科学博物館）

共催：独立行政法人 国立科学博物館、公益財団法人 日本博物館協会

後援：文部科学省

参加者数：17 人

実施プログラム

タイトル	内 容	担 当
城南公園で昆虫採集	公園内の昆虫を採取し、その多様性や種ごとの生息場所の違いを解説。	岩田朋文
作って納得！ツルピカまん丸泥だんごの秘密	表面がピカピカの泥だんごを作りながら、粘土の性質を解説。	増渕佳子
紫キャベツで液体の性質を調べる	様々な液体の性質調査とろ紙を使ったリトマス紙作りを行い、その化学反応を解説。	本田実咲
博物館の収蔵庫には何が！	収蔵庫を見学し、博物館の役割である資料の収集・保管や標本の重要性を解説。	坂井奈緒子 岩田朋文 太田道人
星の動きの理解と星座早見の使い方	前半は、スマート望遠鏡や日食グラスでの太陽観察と解説。後半は、プラネタリウムで星座早見の使い方を解説。	林 忠史 宮野 彩
たのしむ重力	特別展の展示装置を通して、重力の重要性や特徴を楽しく解説。	市川真史

2 博物館利用案内書の配布

学校向け資料「学校で博物館を利用しよう」（令和 6 年 6 月改訂）を富山市内の全小学校に配布し、館の活用方法等教育機能を紹介した。また、校務支援システム C4th で案内（R6 年 7 ～ 11 月）を行った。（担当：森山千賀子）

3 オンラインによる学芸員の授業参加

市内小・中学校を対象に、学芸員が授業にオンラインで参加し質問への回答や話をする事業を令和5年2月に開始し、博物館利用案内書で紹介している。令和6年度は2件の申込みがあり授業参加を行った。（担当：坂井奈緒子、藤田将人、高畑 晃、森山千賀子）

対 応 分 野：地学・生物・物理・天文

申込み方法：館ホームページの受付フォームから教員が申込み

授業参加の実施

学校名 学年クラス	実施日時	分 野	内 容
長岡小学校 6年1組	6. 9. 12 11:00～11:25	地学	呉羽山の成り立ちについてスライドを用いて解説し、現地見学の動機づけとした。（担当：増渕佳子）
芝園小学校 5年4組	7. 1. 24 13:15～14:00	物理	振り子の授業の中で児童それぞれが異なるテーマで複数時間にわたって実験しており、その中で生じたさまざまな疑問に、個別に答えた。（担当：市川真史）

Ⅶ 令和6年度「SDGs-ESD 富山シンポジウム（意見交換会）」への参加

令和7年2月13日（木）、集合参加とオンライン参加による複合形態で開催された。当館はオンラインで参加。小学校9校、中学校2校、関係団体がESD活動の発表や意見交換を行った。（担当：近藤秀作、岩田朋文）

Ⅷ 市役所出前講座「科学博物館の展示と活動について」の実施

富山市が市民と行政との協働により市民主体のまちづくりを推奨する一環として行っている市役所出前講座のうち、博物館の展示と活動への理解を深めてもらう講座を用意していたが、令和6年度の申込みは0件であった。

6 プラネタリウム投影事業

プラネタリウムがリニューアルして2年目となった令和6年度の観覧者数は、77,095人であった。

一般投影では、季節の星空オリジナル解説に続き、6本の映像番組を投影した。映像番組「まだ見ぬ宇宙へ」では、番組制作に携わった上坂浩光監督による講演会を8月に開催した。また、特別イベントとして、科学を題材に様々な小説を執筆する作家の伊与原新氏によるトークショーを開催し、小説で取り上げられているオーロラや流星群、火星の様子などについて映像とともに話を伺った。なお、幼児向け投映と学習投影は、例年どおりの時期に実施した。

12月16日～18日には、日本プラネタリウム協議会（JPA）が実施する「全国プラネタリウム研修会2024・富山」を当館で開催した。本研修会については「9 他機関への協力」を参照。

I 一般向け投影

オリジナル制作の季節の星空紹介に続き、映像番組を投影した。

1 季節の星空紹介

映像番組の前に投影する約10分間の星空解説番組を6本制作した（上映は前年度分を含めて7本）。当日の夜8時～9時に見える星空を紹介している。約2か月毎に更新し、時季にあわせた話題を毎回「学芸員のつぶやき」としてテロップで紹介した。ナレーションは職員と館ボランティアが担当した。

（担当：宮野 彩、近藤秀作、寺崎佑哉）

タイトル	期間
春の星空	6. 3.16 ～ 6. 5.15
春～初夏の星空	6. 5.16 ～ 6. 7.15
夏の星空	6. 7.16 ～ 6. 9.30
秋の星空	6.10. 1 ～ 6.11.30
秋～冬の星空	6.12. 1 ～ 7. 1.31
冬の星空	7. 2. 1 ～ 7. 3.16
春の星空	7. 3.17 ～ 7. 5.11

2 映像番組

(1) 「まだ見ぬ宇宙へ」

期 間：令和5年10月1日（日）～令和6年9月30日（月）

内 容：地球を飛び立ち、宇宙を広く見渡ししながら様々な天体を巡って宇宙の姿を紹介する番組。

(2) 「ゲゲゲの鬼太郎 河童のテラフォーミング」

期 間：令和6年3月1日（金）～令和7年2月28日（金）

内 容：宇宙飛行士を目指す河童とともに、訓練などをおして火星の「テラフォーミング」について学ぶ番組。

(3) 「キトラ古墳壁画 天文図と中国星座の世界」

期 間：令和6年3月1日（金）～令和6年6月30日（日）

内 容：キトラ古墳の石室に描かれている天文図をとおして、古代中国の星座や天に関する思想について紹介する番組。

(4) 「3-2-1 LIFTOFF! ハムスターのスペースアドベンチャー！」

期 間：令和6年7月1日（月）～令和7年6月30日（月）

内 容：ハムスターとロボットが、試行錯誤しながら飛行機やロケットを発明し宇宙を目指す番組。

(5) 「ORIGIN ～太陽系のはじまりを求めて～」

期 間：令和6年10月1日（火）～令和7年9月30日（火）

内 容：本格的な観測を始めてから10年を超えた電波望遠鏡アルマ。アルマによる原始惑星系円盤の観測とともに太陽系誕生の姿を紹介する番組。

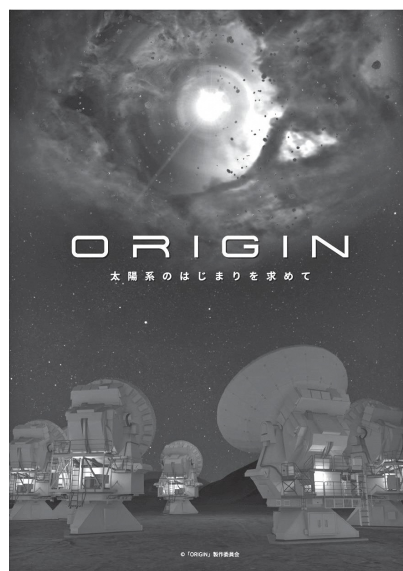
(6) 「忍たま乱太郎の宇宙大冒険 with コズミックフロント☆NEXT 土星めぐりでシャッターチャンス
の段」

期 間：令和7年3月1日（土）～令和8年2月28日（土）

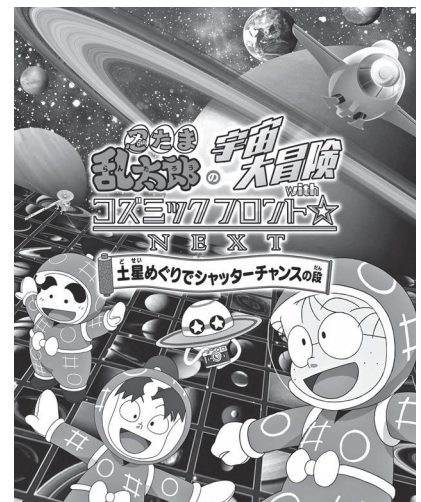
内 容：土星観光大使のオカシーニとともに乱太郎たちが土星ツアーに出発し、土星の秘密を探る番組。



3-2-1 LIFTOFF!
ハムスターのスペースアドベンチャー！
（©Krutart）



ORIGIN
～太陽系のはじまりを求めて～
（©「ORIGIN」製作委員会）



忍たま乱太郎の宇宙大冒険 with コ
ズミックフロント☆NEXT
（© 尼子騒兵衛 / NHK・NEP）

3 生解説投影「学芸員と星空さんぽ」

その日の星空や天文の話題などを学芸員が紹介する生解説投影を行った。

（担当：近藤秀作、宮野 彩、中林みぎわ）

日 時：毎週土・日曜日、祝日 16：00～16：45

Ⅱ 幼児向け投影

星や七夕の物語への興味と関心を高めるため、保育所や幼稚園などの幼児団体を対象として、生解説を含む番組を投影した。投影後半は映像番組「ほしをつかまえたおうじ」を投影した。アンケート結果は「14 アンケート調査結果」を参照。

タイトル：たなばた

期 間：令和6年6月3日（月）～7月9日（火）

内 容：夏の星座と七夕の物語の紹介（生解説）、「ほしをつかまえたおうじ」（映像番組）

対 象：保育所・幼稚園など予約団体

観覧状況：市内の90団体2,862人、市外の20団体674人、幼児団体以外1団体21人。

Ⅲ 学習投影

小学校第4学年の天文学習内容の理解促進のため、学校団体向けの学習番組を投影した。アンケート結果は「14 アンケート調査結果」を参照。

期 間：令和6年9月17日（火）～11月29日（金）

内 容：月の動き、夏から冬の星座、方角による星の動きの違い、星の色の違いなどを解説。

対 象：市内の小学4年生（科学博物館の利用学習として来館）、予約団体等

観覧状況：市内小学校全63団体3191人、市外の6団体311人。

Ⅳ 特別投影

1 スペシャルプラネタリウム

特別展と連動したオリジナル解説番組、「熟睡プラ寝タリウム」、「CDコンサート」などの特別投影を実施した。

観覧人数：のべ1,531人

タイトル	実施日	時間	内容（担当）	人数
星空とCDコンサート ～ジブリ音楽～	6. 5. 5	16:00～16:45	スタジオジブリの楽曲とともに、星空や美しい映像を楽しんだ。 （宮野 彩）	95
ヒーリングクラゲタリウム	6. 7. 15			177
	6. 8. 13			160
	6. 8. 14	16:00～16:45	鶴岡市立加茂水族館で撮影したクラゲの全天周映像をテロップ解説で投影した。	132
	6. 8. 15		（近藤秀作、宮野 彩）	135
	6. 8. 16			117
星空とCDコンサート ～月の音楽とともに～	6.10.14	16:00～16:45	月にちなんだ楽曲とともに星空や月を眺めて楽しんだ。（近藤秀作）	64
全国一斉 熟睡プラ寝 タリウム～プラネで やすまれ～	6.11.23	13:30～14:15	勤労感謝の日に合わせ、観覧者を眠りに誘う投影を行った。投影は、各回異なる解説者が実施した。	175
		14:45～15:30		145
		16:00～16:45	（近藤秀作、宮野 彩、中林みぎわ）	109
クリスマス	6.12.21	13:30～14:15 16:00～16:45	クリスマスの頃の星空やクリスマスツリーの頂にある星の意味などを紹介した。（林忠史）	123 99

2 キッズプラネタリウム

幼児から小学校低学年を対象に、プラネタリウムに親しんでもらうための番組を投影した。投影では、話を進める進行役とオリジナルキャラクターの声を当てる役の二人の掛け合い形式で話を進めたほか、一緒に歌を歌う演出などを行った。

観覧人数：1,058 人

タイトル	実施日	時間	内容（担当）	人数
たなばた	6. 7. 7	9:45 ～ 10:25 11:00 ～ 11:40	七夕の星や物語を紹介し、天の川の正体を探るための宇宙旅行を演出した。 (宮野 彩、森山千賀子、中林みぎわ)	176 177
おつきみ	6. 9. 15	9:45 ～ 10:25 11:00 ～ 11:40	秋の星座や月の模様、アポロ計画などについてクイズを交えて紹介した。後半は、オリジナル番組「たぬきのぼんつきへゆく」を投影した。 (宮野 彩、森山千賀子、中林みぎわ)	176 177
クリスマスの おほしさま	6.12.22	9:45 ～ 10:25 11:00 ～ 11:40	冬の星座を紹介したり、星々を結んでツリーやリボン、プレゼントボックスを作ったりして楽しんだ。 (近藤秀作、森山千賀子)	174 178

V 特別イベント

1 スペシャルトークショー「まだ見ぬ宇宙へ」～上坂監督の描く宇宙～

プラネタリウム番組「まだ見ぬ宇宙へ」の上映に関連し、番組制作に携わった上坂浩光監督を招き、番組の鑑賞と上坂氏による講演を行った。講演では、宇宙の壮大なスケールの話や番組制作において、科学的に映像化するための工夫などを話していただいた。(担当：宮野 彩)

開催日時：令和 6 年 8 月 4 日（日） 16:00 ～ 17:30

参加人数：84 人

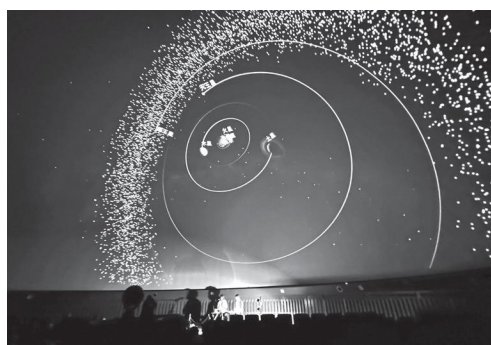
2 スペシャルトークショー小説×科学 作家・伊与原新さんの世界 in プラネタリウム

富山ゆかりの小説家、伊与原 新氏をお招きして、富山大学での研究者時代から小説家になるまでの経緯、物語を作るきっかけ、科学的な事実を小説に組み入れていく方法などをお話いただいた。プラネタリウムでは、小説の世界観が分かりやすいように作品に登場するオーロラや流星群、クレーターなどについての映像を投影した。

(担当：近藤秀作、増渕佳子)

日 時：令和 6 年 9 月 23 日（月・祝） 16:00 ～ 17:30

参加人数：84 人



3 スペシャルプラネタリウム

「プラネタリウム 100 周年」×「すばる望遠鏡 25 周年」記念 全国一斉オンライン講演会

すばる望遠鏡の初観測から 25 周年を記念し、ハワイと日本国内 25 カ所の施設をオンラインで結び、すばる望遠鏡の宮崎所長による講演とハワイの星空のライブ中継を行うイベントを実施した。(担当：宮野 彩、近藤秀作)

開催日時：令和 6 年 10 月 19 日（土） 14:00 ～ 15:30

参加人数：135 人



4 第 8 回全天周コンテンツコンテスト※ 作品上映会

標記コンテストに出品された動画作品 8 点を解説とともに上映した。今回は、招待上映として有楽町のプラネタリウム館で上映する番組用に作られた短編映像も上映した。上映会に先立ち、多目的学習室で全天周コンテンツコンテスト実行委員会による研究発表会が行われた。(担当：林 忠史)

※ドーム形状のスクリーンで上映することを目的とした動画・静止画作品を募集し、コンテストにより優秀作品を選考する企画。(主催：全天周コンテンツコンテスト実行委員会 共催：一般社団法人芸術科学会、後援：公益財団法人画像情報教育振興協会、協力：富山大学芸術文化学部)

開催日時：令和 6 年 11 月 4 日（月・休） 16:55 ～ 17:30

参加人数：27 人

5 特別投影「東日本大震災関連番組 星よりも、遠くへ」

地震や災害、被災者たちへの意識を高めることを目的とし、2018 年に仙台市天文台が制作した東日本大震災の日の星空と被災者とのつながりを描いたプラネタリウム版ドキュメンタリー番組の上映を行った。(担当：宮野 彩)

開催日時：令和 7 年 3 月 8 日（土）、9 日（日） 16:00 ～ 16:45

参加人数：3 月 8 日 96 人、3 月 9 日 52 人

6 公益財団法人 富山市民文化事業団（オーバード・ホール）主催のプラネタリウムイベント

プラネタリウムを会場として、公益財団法人 富山市民文化事業団（オーバード・ホール）によるライブイベントが 2 回開催され、当館は楽曲に合わせて背景に星空や美しい景色の実写映像の上映などの映像演出での協力を行った。(担当：近藤秀作、宮野 彩、林 忠史)

(1) 尾崎裕哉「Starry Night Concert」

プラネタリウムライブ 2 度目の出演となる尾崎裕哉氏がオリジナル曲のほか、尾崎豊「OH MY LITTLE GIRL」など、計 13 曲を披露し会場を魅了した。

開催日時：令和 6 年 7 月 5 日（金） 19:00 ～ 20:30

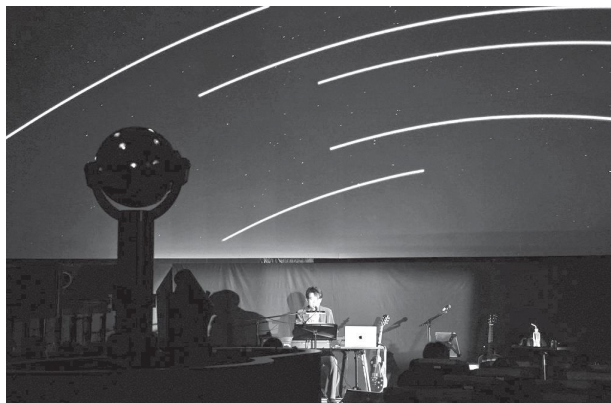
出演者：尾崎裕哉

(2) 原田郁子 Live in プラネタリウム ～いまここ～

クラムボンの原田郁子氏が、2023年に谷川俊太郎氏と共に作曲した「いまここ」を始めとする計10曲を披露した。曲間には、谷川俊太郎氏の「闇は光の母」の朗読があるなど、これまでとまた違った雰囲気のライブとなった。

開催日時：令和7年3月7日（金） 19：00～20：30

出演者：原田郁子



7 恐竜化石事業

普及行事として「夏休み恐竜探検隊」を8月に2日間実施し、恐竜と化石の基礎講座、化石レプリカ作り、足跡化石の見学、化石発掘体験を行った。

I 普及行事

1 夏休み恐竜探検隊

実施日：令和6年8月21日（水）、22日（木）

（両日ともに晴れ）

場所：大山総合体育センター（スポール）

恐竜足跡化石発掘現場周辺

対象：小学4～6年生（保護者同伴）

参加人数：38人（欠席2人）

内容：午前 恐竜と化石の基礎講座

講師 21日 金子一夫

22日 藤田将人

化石のレプリカ作り（三葉虫のレプリカを作成）

午後 足跡化石の見学、化石発掘体験

（担当：藤田将人、吉岡 翼）



足跡化石の見学

8 情報・広報事業

I 情報システム

情報システムは、展示や普及教育、調査研究などの各事業を有機的に結びつけ、市民にタイムリーに情報を提供するための重要なツールである。

前年度に大部分を更新した情報システムは順調に稼働し、企画展の解説パネルや展示映像の製作に加え、富山市内の小中学校向けの「オンラインによる学芸員の授業参加」の実施、オンライン研修会等への参加などでシステムが活用され、博物館活動を支える重要な役割を果たした。

ウェブサイトのアクセス状況は、平成30年度からはメインサイトのページが開かれた回数で評価している。従来はページビュー数としていたが、集計システムの移行により、相当する指標である表示回数に改めた。本年度は北米の日食が話題となった4月9日の33,230回が最多で、入館者が多くのお盆期間や文化の日に7,000件／日を超えるアクセスを記録した。年間では昨年より約7万件多い約108万件的アクセスがあった。

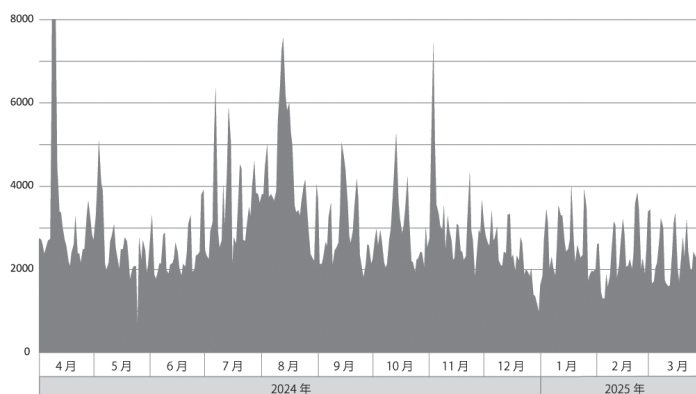


図 R6.4～R7.3の1日あたりのページ表示回数の推移
(フェイスブックや一部ページへのアクセスは除く)

II ウェブサイト・チラシ等による広報

1 ウェブサイトによる広報

より見やすく、分かりやすいページとなるよう、随時システムに細かな改良を加えた。夏の特別展や「サイエンス・ラボ」オープンの際には、PR効果を高めるための画像をトップページのメインビジュアルとして表示したり個別ページにギミックを加えたりするなどした。

2 SNSでの発信

博物館の取り組みや行事の様子など、Facebookには27件の情報を投稿し延べリーチ数は9,853件であった。また、X(旧Twitter)には49件の情報を投稿した。

3 チラシの発行

- ・年間展示案内(各所配布)
- ・プラネタリウム投影プログラム(館内配布)
- ・年間イベント案内(各所配布)
- ・夏休み恐竜探検隊(館内配布)
- ・特別展「たのしむ重力 ～落ちる ひっばる そして、曲げられる♪～」(学校・各所配布)

4 館外掲示ポスター

プラネタリウム番組(年3回・各所配布)

特別展「たのしむ重力 ～落ちる ひっばる そして、曲げられる♪～」(学校・各所配布)

5 館内掲示ポスター

プラネタリウム番組(年3回・各所配布)

プラネタリウム特別番組（14 回）
 企画展「立山さんろく 自然の魅力」
 企画展「令和 5 年度富山県科学展覧会入賞作品展 アイディア浮かぶ科学の広場」
 特別展「たのしむ重力 ～落ちる ひっばる そして、曲げられる♪～」
 企画展「第 45 回 SSP 展 自然を楽しむ科学の眼 2024 - 2025」
 企画展「ふしぎいっぱい自然と科学」
 企画展「第 32 回 私の身近な自然展」
 企画展「日本星景写真協会写真展－星の風景 2025－」
 星空観察会（2 回）
 特別観察会（5 回）
 友の会 P R

6 映像機器による館内広報

- (1) 館内案内ディスプレイ

1 階総合案内前と 2 階エレベーター横、3 階天文展示室のモニターに当日の行事や展示、プラネタリウムの番組、館内の注意事項などを表示した。
- (2) プラネタリウム内でのイベント案内

土・日・祝日と春・夏・冬休み期間中には、プラネタリウムの投影が始まるまでの待ち時間にドーム内で上映番組やイベント情報を紹介した。
- (3) 天文 PR ディスプレイ

1 階ロビーに設置し、星空観察会などの天文系イベントや星空の様子などを紹介した。

Ⅲ 富山市広報・マスコミによる広報

1 広報とやま

市内の全世帯約 18 万 6 千戸へ月 2 回配布される「広報とやま」に、イベント情報を毎回掲載した。

2 マスコミ各社への情報提供

イベント情報を新聞社、出版社、放送局など 31 か所へ毎月 1 回提供したほか、6 か所には依頼に応じた情報を提供した。本年度は新聞に 30 回掲載された。

テレビ・ラジオによる情報提供・告知の詳細

氏名	取材対応日	内容	媒体	備考
太田 道人 清水 海渡 増 渕 佳子 岩 田 朋 文	6. 4. 11	開催中の企画展「立山さんろく 自然の魅力」について、見どころや展示物について紹介、解説をした。	富山シティエフエム	出演
太田 道人 増 渕 佳子	6. 4. 15	開催中の企画展「立山さんろく 自然の魅力」と、ロビー展「能登半島地震 被害調査プロジェクト」について、見どころを紹介した。	ケーブルテレビ富山	出演
近 藤 秀 作	6. 5. 8	流星刀やその材料となった隕石について紹介した。	県内ケーブルテレビ	出演
近 藤 秀 作	6. 5. 12	全国的に観測された低緯度オーロラについて紹介した。	NHK 富山放送局	取材

近 藤 秀 作	6. 5.13	富山県内で観測された低緯度オーロラについて紹介した。	チューリップテレビ 富山テレビ放送	出演
岩 田 朋 文	6. 6.10	カメムシの多様性を紹介し、あわせてタガメのように減少しているカメムシもいることを紹介した。	チューリップテレビ	出演
高 畑 晃	6. 6.11	開催中の企画展「アイディア浮かぶ科学の広場」の趣旨や展示してある科学作品について紹介した。	NHK 富山放送局	出演
岩 田 朋 文	6. 6.13	アオバアリガタハネカクシの基礎生態を紹介した。	チューリップテレビ	取材
岩 田 朋 文	6. 6.21	ゲンジボタルの基礎生態を紹介した。	テレビ朝日	取材
藤 田 将 人 本 田 実 咲	6. 6.22	特別展「たのしむ重力」と夏のイベント「夏休み恐竜探検隊」、「大きな竹ブランコに乗ってみよう」を紹介した。	北日本放送(ラジオ)	出演 取材
市 川 真 史	6. 7. 2	梅雨時でも楽しめる屋内施設として、当館のプラネタリウムや常設展示、開催中の企画展、イベントを紹介した。	富山テレビ放送	出演
坂井奈緒子	6. 7.11	身近にあって観察しやすいコケ植物について、城南公園の樹幹、土、コンクリートに生育する種類を紹介した。	富山テレビ放送	出演
藤 田 将 人 坂井奈緒子 近 藤 秀 作	6. 7.11	科学博物館の展示やプラネタリウムなどの様子を紹介するための映像をドローンを用いた撮影を行った。	チューリップテレビ	取材
市 川 真 史	6. 7.19	翌日から開催する特別展「たのしむ重力」について、展示の様子や開催の狙いを生中継で紹介した。	NHK 富山放送局	出演
岩 田 朋 文	6. 7.22	開催中のロビー展と特別展の概要、昆虫学芸員の研究や今後の抱負、昆虫の魅力などを紹介した。	富山シティエフエム	出演
増 渕 佳 子	6. 7.25	山の日に関連番組内で、水晶岳で産出する水晶について、その成因や現在の産出状況などを紹介した。	北日本放送	出演
太 田 道 人	6. 8.18	昔の館イベント「標本同定会(1983年)」や「自由研究相談会(1993年)」などの映像を見ながら、当時の様子と現在の同行事の状況について解説した。	富山テレビ放送	出演
森山千賀子	6. 8.18	「自由研究のまとめ方相談会&標本の名前を調べる会」で各分野の学芸員と講師が対応する様子を紹介した。	富山テレビ放送	取材
林 忠 史 宮 野 彩	6. 8.30	“没入”をテーマにした取材で、恐竜展示や立山の展示、プラネタリウムについて紹介した。	北日本放送	出演
近 藤 秀 作	6. 9.23	「小説×科学 作家・伊与原 新さんの世界 in プラネタリウム」開催の様子取材に対応した。	NHK 富山放送局	取材

宮 野 彩	6.10.11	富山県内で観測された低緯度オーロラについて紹介した。	北日本放送	出演
市川真史 増 渕 佳 子 高 畑 晃 藤 田 将 人 近 藤 秀 作	6.12. 3	1月のイベント、ロビー展「能登半島地震 あの日、私たちの周りで起きたこと」、特別観察会「接近中の火星を見よう」、第32回「私の身近な自然展」、サイエンスライブなどを紹介した。	FMとやま	出演
増 渕 佳 子	7. 1.16	元・富山大学理学部助教だった作家・伊与原 新さんの直木賞受賞について、コメントを寄せた。	NHK 富山放送局	取材
稲 場 春 樹	7. 1.26	お笑い芸人が富山県民から寄せられた願い事を叶える番組の収録に対応した。	チューリップテレビ	出演
坂井奈緒子	7. 3.13	新たに整備した「サイエンス・ラボ」の室内、今後の活用を紹介した。	北日本新聞社映像	取材
稲 場 春 樹	7. 3.20	お笑い芸人が富山県民から寄せられた願い事を叶える番組中の質問に対応した。	チューリップテレビ	出演

9 他機関への協力

学校、博物館などの教育機関、研究機関及び行政機関等からの要請により、各種委員会や講演・会議への職員の派遣を行った。また研修等の受け入れも行った。

I 全国大会等の開催

1 「全国プラネタリウム研修会 2024・富山」の開催

日本プラネタリウム協議会が毎年行っている、全国のプラネタリウム施設で働く現役の担当者などを対象とした「全国研修会」を当館で開催した。プラネタリウム担当者として必要な基本的な技術の取得・向上、イベント企画のノウハウ、実践を通じて 3D データに触れる、という 3 つのコース別研修のほか、ベテラン投影者などによる模擬投影、重力波望遠鏡 KAGRA に関する記念講演などを実施した。

会 期：令和 6 年 12 月 16 日（月）～ 18 日（水）

会 場：富山市科学博物館

主 催：日本プラネタリウム協議会、JPA 北陸プラネタリウムワーキンググループ、富山市教育委員会（富山市科学博物館）

協 力：富山県天文学会

参 加 者：124 名

研修内容：コース別研修

「新人研修コース」講師：小野田 淳子（宗像ユリックスプラネタリウム）

「イベント投影コース」講師：井上 毅（明石市立天文科学館）

「3D データ活用コース」講師：吉岡 翼（富山市科学博物館）

記念講演

「重力波望遠鏡 KAGRA で地下から見る宇宙」講師：宮川 治（東京大学宇宙線研究所）

「見せるテレビ観望」講師：Sam

など

II 研修等の受入

1 教員研修「社会体験研修」の受入

なし

2 職場体験学習「社会に学ぶ『14 歳の挑戦』」の受入

学 校 名	人 数	担当職員	学習期間
富山市立南部中学校	3	森山千賀子	6. 7. 1 ～ 7. 5
富山市立大泉中学校	2		6. 7. 1 ～ 7. 5
片山学園中学校	5		6. 7. 9 ～ 7. 11

3 インターンシップの受入

人 数	担当職員	学習期間
県内大学生 3 名	島田健太郎	6. 8. 22

4 博物館実習生の受入

学芸員資格の取得をめざす大学生 10 名を対象に、博物館の活動や学芸員の業務の実際を学ぶ 8 日間の実習を行った。(担当：太田道人、岩田朋文)

氏 名	学 校 名	実習期間
門 倉 涼	富山大学 都市デザイン学部地球システム科	6.8.5 ~ 8
河 合 直 緒	富山大学 理学部 生物学科	6.8.20 ~ 22, 25
西 野 光 喜	富山大学 都市デザイン学部地球システム科	
星 野 和 志	富山大学 都市デザイン学部地球システム科	6.8.5 ~ 8
瀬 戸 口 海 翔	富山大学 都市デザイン学部地球システム科	6.9.8 ~ 11
中 山 雄 介	立正大学 地球環境科学部 環境システム学科	
桐 山 美 咲 子	富山大学 都市デザイン学部地球システム科	
宮 崎 奎 滉	富山大学 理学部 生物圏環境科	6.8.5 ~ 8
山 浦 朋 希	富山大学 理学部 生物圏環境科	6.9.22 ~ 25
田 嶋 日 菜 乃	北海道大学 文学部 人文科学科	

5 富山大学「博物館展示論」への協力

富山大学人文学部の学芸員養成科目のうち、「博物館展示論」の実習（1 日間）を行った。

テーマ	期 日	内 容	学生人数	講師
展示状況の観察、 展示の解説活動	6.12.12	展示物には学芸員らの研究成果や社会的環境が反映されていることなどを学び取り、展示が果たす役割を考えた。また、人前で展示解説を行う体験をとおして、受け手への配慮の重要性について理解を深めた。	15	坂井奈緒子 藤田将人

6 大学生・大学院生への研究指導の受入

なし

7 「令和 6 年「宇宙の日」記念 全国小・中学生作文絵画コンテスト」の開催

標記コンテストを協力科学館として実施した。県内外の小中学校から、絵画の部に 6 点の応募があり、部門ごとに受賞者を選定し表彰した。(主催：国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構、公益財団法人日本宇宙少年団)(担当：森山千賀子)

Ⅲ 講師等の派遣

1 講演会・講習会への派遣

氏 名	期 日	内 容	場 所	依頼者
岩 田 朋 文	6. 5. 2	ジュニアナチュラリスト養成講座講師	富山市科学博物館	NPO 法人富山県自然保護協会理事長
近 藤 秀 作	6. 5.15	令和 6 年度富山県博物館協会総会講師	富山県美術館	富山県博物館協会長
岩 田 朋 文	6. 5.18	第 8 回「富山の生物多様性」公開講演会講師	富山県中央植物園	富山県中央植物園長
藤 田 将 人 増 渕 佳 子 岩 田 朋 文	6. 6.27	基礎地球セミナー講師	富山市科学博物館	富山大学都市デザイン学部長
岩 田 朋 文	6. 6. 1	親子で体験！！田んぼの生き物教室 2004 講師	南砺市皆葎地区	南砺市農政課課長
岩 田 朋 文	6. 6. 5	常願寺川の水質調査講師	常願寺川立山橋下	上滝みらいミーティング実行委員会長
増 渕 佳 子	6. 6.26	市民大学講師	市民学習センター	富山市教育委員会
岩 田 朋 文 太 田 道 人	6. 6.29	ジュニアナチュラリスト養成講座講師	富山市科学博物館	NPO 法人富山県自然保護協会理事長
増 渕 佳 子	6. 7.27	富山ガラス大賞展 2024 関連イベント「石×ガラス×自由研究」講師	富山市科学博物館ほか	富山ガラス大賞展実行委員会長
清 水 海 渡	6. 8. 3	令和 6 年度有峰森林文化村事業講師（欠席）	有峰森林文化村公園	公益社団法人富山県農林水産公社理事長
近 藤 秀 作 宮 野 彩	6. 8.23	夜の竖穴建造物見学と星空観察講師	富山市北代縄文広場	富山市埋蔵文化財センター所長
増 渕 佳 子	6.10. 5	常願寺川河原の石ころ探検講師	常願寺川立山橋河川敷	上滝みらいミーティング実行委員会長
増 渕 佳 子	6.10.19	日本火山学会公開講座「親子で火山実験『知りたい！北海道の火山いろいろ』」講師	札幌市青少年科学館	特定非営利活動法人日本火山学会長
藤 田 将 人	6.12. 7	大山歴史民俗研究会令和 6 年度「第 3 回研修会」講師	富山市大山会館	大山歴史民俗研究会長
本 田 実 咲	6.12.19	富山市適応指導教室及び不登校支援事業講師	富山市科学博物館	富山市教育センター所長
宮 野 彩	7. 1.18	プラネタリウム特別投影「ひらはくオールスターズ」ゲスト投影	平塚市博物館	平塚市博物館長

2 会議・研究会等への派遣

氏 名	期 日	内 容	場 所	依頼者
浦 田 純 一	6. 5.15	令和 6 年度富山県博物館協会 第 1 回理事会・総会	富山県美術館	富山県博物館協会会長
浦 田 純 一	6. 7. 4	令和 6 年度第 1 回全国科学博 物館協議会理事会	国立科学博物館	全国科学博物館協議 会理事長
浦 田 純 一	6.11.13	令和 6 年度 立山カルデラ砂 防博物館運営委員会	富山県民会館	公益財団法人立山 カルデラ砂防博物 館理事長
浦 田 純 一	7. 2.12	令和 6 年度第 2 回全国科学博 物館協議会理事会	オンライン	全国科学博物館協 議会理事長
林 忠 史	6. 7. 1 ～ 3	日本公開天文台協会第 18 回 全国大会	ギャラクシティ	日本公開天文台協 会会長
林 忠 史	6. 9. 5	令和 6 年度第 1 回黒部市吉田 科学館協議会	黒部市吉田科学館	黒部市教育委員会 教育長
林 忠 史	6.11.12	令和 6 年度第 2 回黒部市吉田 科学館協議会	黒部市吉田科学館	黒部市教育委員会 教育長
坂井奈緒子	7. 3. 7	富山県博物館協会研修会	高岡市美術館	富山県博物館協会会長
増 渕 佳 子	6. 4.25	博物館調査（地質）	魚津市松倉 坊主 山付近	魚津埋没林博物館長
増 渕 佳 子	6. 5. 9 6. 7.17 6.12.15	日本地質学会生涯学習委員会	オンライン	日本地質学会生涯 教育委員会委員長
増 渕 佳 子	6.12.13 7. 3.27	日本火山学会学校教育委員会	オンライン	NP0 法人日本火山学 会学校教育委員会委 員長
太 田 道 人	6. 8.20 ～ 8.21	立山アルペンルート沿線外来 種植物調査	立山アルペンルー ト沿線	立山植生研究会会長
岩 田 朋 文	7. 1.20	全国科学館連携協議会北信越 ブロック会議（欠席）	福井原子力センター あっとほうむ	福井原子力センター 専務理事
岩 田 朋 文	7. 2.13	令和 6 年度「SDGs-ESD 富山市 シンポジウム」並びに「富山 ESD 講座」第 2 回運営委員会	オンライン	富山 ESD 講座運営 委員会会長
清 水 海 渡	6. 4.25	第 1 回富山市クマ対策会議	富山市大久保ふれ あいセンター	富山市クマ対策会 議座長
近 藤 秀 作	6. 6.18	令和 6 年度「富山 ESD 講座」 第 1 回運営委員会	オンライン	富山 ESD 講座運営 委員会会長
宮 野 彩	7. 2.25	日本プラネタリウム協議会会 誌編集会議	仙台市天文台	日本プラネタリウム 協議会理事長

高 畑 晃	6. 5. 10	富山県理科教育振興会第1回 拡大副会長会	富山県教育記念館	富山県理科教育振 興会会長
高 畑 晃	6. 6. 19	富山県理科教育振興会全体研 修会	富山県総合教育センター	富山県理科教育振興 会会長
高 畑 晃	6. 7. 3	富山県科学展準備委員会	富山市科学博物館	富山県理科教育振興 会会長
高 畑 晃	6. 7. 29	富山県理科教育振興会第2回 拡大副会長会（欠席）	富山県総合教育センター	富山県理科教育振興 会会長
高 畑 晃	6. 11. 21	富山県理科教育研究発表会 （欠席）	富山県総合教育センター	富山県理科教育振興 会会長
高 畑 晃	6. 10. 2 6. 10. 15 6. 10. 16 6. 10. 21	富山県科学展覧会実行委員会	富山市科学博物館	富山県理科教育振興 会会長

3 大学非常勤講師派遣

氏 名	期 間	内 容	依頼者
坂井奈緒子	6. 11. 1 ～ 7. 3. 31	博物館展示論	国立大学法人富山大学長
藤田 将人	6. 11. 1 ～ 7. 3. 31	博物館展示論	国立大学法人富山大学長

IV 委員等受嘱

氏 名	期 間	内 容	依頼者
浦 田 純 一	6. 4. 1 ～ 7. 3. 31	全国科学博物館協議会理事	全国科学博物館協議会理 事長
浦 田 純 一	6. 4. 1 ～ 7. 3. 31	富山県博物館協会副会長	富山県博物館協会会長
浦 田 純 一	6. 4. 1 ～ 7. 2. 9	日本海学推進機構専門委員	公益財団法人とやま国際 センター理事長
浦 田 純 一	6. 4. 1 ～ 7. 3. 31	公益財団法人立山カルデラ砂防博物 館運営委員会委員	公益財団法人立山カルデ ラ砂防博物館理事長
林 忠 史	6. 4. 1 ～ 8. 3. 31	黒部市吉田科学館協議会委員	黒部市教育委員会教育長
坂井奈緒子	6. 10. 1 ～ 8. 9. 30	富山県河川整備計画検討委員	富山県知事
増 渕 佳 子	6. 7. 4 ～ 8. 6. 30	日本火山学会学校教育委員会委員	NP0 法人日本火山学会長
増 渕 佳 子	6. 10. 29 ～ 8. 6. 30	日本地質学会生涯教育委員会委員	一般社団法人日本地質学 会会長
増 渕 佳 子	6. 10. 28 ～ 10. 3. 31	立山黒部ジオパーク協会専門ジオガ イド	一般社団法人立山黒部ジ オパーク協会会長

宮 野 彩	6. 7.30 ～ 8.6.30	日本プラネタリウム協議会編集委員	日本プラネタリウム協議 会理事長
宮 野 彩	6. 7.22 ～ 8.7.31	日本天文教育普及研究会編集委員	日本天文教育普及研究会長
宮 野 彩	6. 3.22 ～ 6.12.31	日本天文教育普及研究会 2024 年度 年会実行委員	日本天文教育普及研究会長
太 田 道 人	5. 7.19 ～ 7.3.31	黒部川水系流域委員会委員	国土交通省北陸地方整備 局長
太 田 道 人	5. 4. 1 ～ 7.3.31	立山町文化財保護審議委員会委員	立山町教育委員会
太 田 道 人	5. 6.14 ～ 7.3.31	常願寺川水系流域委員会委員	国土交通省北陸地方整備 局長
太 田 道 人	6. 5.29 ～ 7. 3.31	砂防事業にかかる環境調査アドバイザー	国土交通省北陸地方整備 局黒部河川事務所長
太 田 道 人	6. 5.29 ～ 7. 3.31	砂防事業にかかる環境調査アドバイザー	国土交通省北陸地方整備 局立山砂防事務所長
太 田 道 人	5. 7. 4 ～ 7.3.31	黒部川自然再生検討会委員	国土交通省北陸地方整備 局黒部河川事務所長
太 田 道 人	5. 6.20 ～改訂完了迄	レッドデータブックとやま改訂のための 検討委員会委員	富山県知事
高 畑 晃	5. 6.20 ～改訂完了迄	レッドデータブックとやま改訂のた めの検討委員会委員	富山県知事
高 畑 晃	6. 4. 1 ～ 7. 3.31	富山県理科教育振興会科学展委員会 副委員長	富山県理科教育振興会会長

10 ボランティア事業

33 年目となるボランティア事業の今年度の活動時間はのべ 1,060 時間で、前年度から微増した。普及行事のサポートや、自身の専門的なスキルを活かして資料整理や調査研究などで活躍いただいている。

I 登録者数と活動時間

1 登録者数

87 人（男性 54 人、女性 33 人）

内訳は、前年度からの継続者が 75 人、新規登録者が 12 人である。

2 活動時間

今年度の活動時間は前年度に比べ増加した。学芸員とボランティアが共同研究しており、調査に係る活動時間が増加した。

活動項目	時間	割合 (%)
展示	15.2	1.4
行事	246.2	23.2
資料整理	233.7	22.1
調査	423.4	40.0
その他	141.4	13.3
合計	1059.8	100.0

II 活動内容

1 研修・学習

実施日	行事名	参加者数
6. 7. 20	ボランティア向け特別展 解説会	2
7. 3. 6	令和 7 年度ボランティア	1
7. 3. 8	登録前研修	1
7. 3. 11		1
7. 3. 8	研究発表会「学芸員の研 究を聞きにきませんか」	4

2 普及教育活動への協力

(1) とやまの自然探検

実施日	行事名	活動者数
6. 4. 7	カタクリとギフチョウの猿倉山	4
6. 5. 19	初夏の美女平	5
6. 11. 14	アキグミ実る常願寺川	2
7. 3. 16	野鳥の声を聞きに行こう！ (雨天中止)	

(2) 科学教室

実施日	行事名	活動者数
6. 6. 9	小さなコケ植物の観察会	1
6. 7. 20	友の会スペシャルデー	1
6. 12. 15	モーターをつくろう	2

(3) 星空観察会・特別観察会

望遠鏡の案内等に協力いただいた。

月	日数	活動者数 (延べ人数)
6. 4	4	9
6. 5	5	17
6. 6	5	12
6. 7	5	13
6. 8	5	12
6. 9	5	16
6. 10	4	12
6. 11	5	14
6. 12	4	11
7. 1	3	7
7. 2	4	8
7. 3	5	11

3 プラネタリウム番組製作への協力

(1) 季節の星空紹介

秋の星空解説のナレーションを担当。

(活動者数 1)

4 ボランティア企画による普及教育活動

(1) 読み聞かせ

実施日	行事名	活動者数
6.10. 5	ピーナッツ なんきん まめ らっかせい	2

5 グループ活動

(1) 泥団子倶楽部

天然の土を使って、表面がツルツルでまんまるの泥団子を作る活動。泥団子に向けた粘土を野外で探したり、普及行事を開催したりして、土の無力を伝えることを目的としている。

令和7年3月29日から、活動を紹介するロビー展「とやまの土で光る泥団子を作るぞ！」も行った。(6月29日まで)(活動者数5)

(2) 「地球をめくろう」の会

地球の内部構造を直感的に伝えるオリジナル絵本を製作する活動。完成した絵本を博物館で展示することを目標としている。(活動者数7)

(3) なんでも工作クラブ

ミニ工作を中心に、おもしろそうなら“なんでも”挑戦する活動。令和6年度は特別展「たのしむ重力」の大型メイン展示「振り子スネーク」を簡易に再現できる工作の開発に取り組んだ。作品は、友の会スペシャルデーでの工作体験に採用した。(活動者数3)

Ⅲ ボランティア通信の発行と メーリングリストの運営

会員向け連絡紙「ボランティア通信」を年4回発行し、館とボランティアやボランティア同士のコミュニケーションを図った。ボランティア通信は、印刷版とオンライン版を発行し、55名がオンライン版を利用している。

ボランティアメーリングリストは、ボランティア通信で紹介できなかった活動の案内・募集などを行っており、ボランティア75人が登録している。

ボランティア通信の発行

発行日	号 (No.)
6. 4.15	No.160
6. 7. 1	No.161
6.11. 1	No.162
7. 1.31	No.163

11 「ジュニア科学賞・とやま」事業

富山市出身の田中耕一氏が平成14年にノーベル化学賞を受賞されたことを記念して、富山市及び富山市教育委員会が平成15年度から行っている事業である。子どもたちの科学や自然に対する豊かな創造性の育成を目的として創設された賞で、田中耕一氏の研究姿勢にみられる「優れた着想」、「ユニークなアイディア」、「粘り強い努力」のいずれかに抜きん出た県内の児童・生徒を、毎年3人以内で表彰している。

第22回「ジュニア科学賞・とやま」

候補者として、小学校から3名、中学校から5名、計8名が学校長から推薦された。研究分野別人数は、小学生では、化学分野が1名、生物分野が2名、中学生では、化学分野が2名、生物分野が1名、地学分野が2名であった。そのうち3名が下記のとおり受賞者に選出され、令和7年2月14日に富山市科学博物館で授賞式が行われた。受賞者と研究内容を紹介するパネルは、同日から次の受賞者が決定するまでの約1年間、とやま・ノーベル賞受賞者コーナーに展示される。

受賞者とその研究内容、候補者を紹介するパンフレットを1,100部作成し、県内小中学校、教育委員会等関係機関に配付した。選考委員及び調査協力員は1章のⅡを参照。(担当:増渕佳子、高畑 晃、森山千賀子)

受賞者名と研究内容

唐木 悠真さん (射水市立大島小学校6年)
佐伯東和子さん (立山町立雄山中学校2年)
吉田 百花さん (富山市立岩瀬中学校2年)

「トマトの甘さに関する研究」
「ダンゴムシとワラジムシのちがい」
「伸びない麺について」



左から 宮口克志富山市教育長、唐木悠真さん、佐伯東和子さん、吉田百花さん、片岡 弘選考会議座長(富山大学教育学部教授)、浦田純一科学博物館長



パンフレット

12 科学博物館整備事業

富山市科学博物館展示更新計画(令和6年2月策定)に基づく展示更新の第1期として、「サイエンス・ラボ」の整備を令和7年3月に完了した。サイエンス・ラボは、サイエンスライブをはじめ、実験、観察イベントやミニ企画展等に使用し、市民と学芸員、研究者とのサイエンスコミュニケーションを深めることを目的に、一階休憩室の隣にあった工作教室を全面改装したものである。観覧者向けの誘導サインを黄色に統一し、大きめのピクトサインを表示した。また、休憩室から中の様子が見えるよう、大きなガラス窓を設けた。

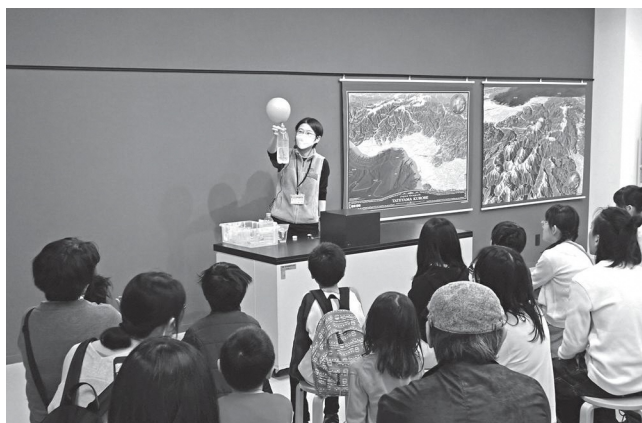
サイエンス・ラボ内には、大型モニタや調光照明、遮光カーテンなどを備えたほか、隣室の旧科学教室をラボ準備室として整備し、両室間を行き来できるようにしたことなどにより、多様な演示形態に容易に対応できる場とした。

3月22・23日には、オープニングイベントとして、外部講師と学芸員が様々な演示を行った(5普及教育事業参照)。また、週末には観覧者向けの実験ショーやサイエンスライブなどを実施した。今後も、市民の自然や科学への関心を高めていく場として活用していく。

令和7年度には、展示更新計画第2期である常設展示「とやま・時間のたび」およびエントランス展示の更新が予定されており、このための準備を進めた。

サイエンス・ラボの主な設備

- ・75インチモニタ、実物投影機
- ・音響設備(ワイヤレスチューナ、ミキサー等)
- ・キャスト付折り畳みテーブル8台、木製丸イス35脚
- ・子ども用手洗いカウンター(5人用)
- ・遮光カーテン、遮光ロールカーテン
- ・掲示用ピクチャレール(北側壁面)
- ・耐薬品性の床



更新計画(令和6年2月策定)

第1期 「サイエンス・ラボ」の整備(完了)

第2期 展示室「とやま・時間のたび」およびエントランス展示の更新

第3期 展示室「とやま・空間のたび」の丘陵地から海エリアの更新

第4期 同 高山から山地エリアの更新

第5期 「おもしろ実験ひろば」を改め「ためして発見ひろば」へと更新

第6期 城南公園内での天体観察室の設置

13 富山市科学博物館友の会

友の会は、博物館と連携した活動を通じて会員相互の親睦と教養の向上を図り、また博物館が広く親しまれるよう、館の行事に協力して自然科学の発展に寄与することを目的としている。博物館は事業企画や職員派遣等をととして、友の会活動をサポートしている。友の会では会員向けの行事を開催しており、博物館は、科学教室 8 回、野外教室 2 回、スペシャルデー 1 回、バスツアー 1 回に協力した。

会員数は一般会員 95 人、家族会員 130 人、賛助会員 5 口（令和 6 年 12 月末現在）である。

友の会の活動・会計年度は暦年で運営されているため、令和 6 年 1 ～ 12 月までの活動を報告する。
（担当：岩田朋文、増渕佳子、清水海渡、宮野 彩、本田実咲、森山千賀子）

I 役員構成

会長	牧野弥一	
副会長	高木和広	
	関野玲子	
理事	田口松男	
	ト部敦夫	
	中林誠治	
	水高清志（前科学博物館館長）	令和 6 年 3 月 31 日まで
	浦田純一（科学博物館館長）	令和 6 年 4 月 1 日から
	林 忠史（科学博物館学芸課長）	
会計監査 （監事）	矢後英子	
	牧 静枝	
事務局長	高田まどか（前科学博物館総務課長）	令和 6 年 3 月 31 日まで
	大釜嘉徳（科学博物館総務課長）	令和 6 年 4 月 1 日から
任期：令和 5 年 1 月 22 日から 2 年間		

II 活動内容

名 称	実施日	内 容	参加人数
第 1 回役員会	6. 1. 27	令和 6 年度総会議案の内容を確認した。	14
令和 6 年度総会	6. 1. 27	令和 5 年度事業報告及び収支決算、令和 6 年度事業計画及び収支予算を承認した。	18
科学博物館主催講演会 「先生、教えて！能登半島 地震と富山の活断層」への協力	6. 3. 31	講師に竹内 章氏（富山大学名誉教授）を招き、能登半島地震や富山県内の活断層について講演いただいた。	51 (12) ※1
科学教室 赤雪を観察しよう	6. 4. 21	赤雪の解説を聞き、赤雪を形成する雪氷藻類を顕微鏡で観察した。（講師：中島智美）	9
科学教室 レジンで星座キーホルダー作り	6. 5. 26	星座に関する解説を聞き、星座をあしらったキーホルダーを UV レジンで製作した。（講師：近藤秀作）	33

科学教室 土とじっくりでツルピカ 泥だんごを作ろう	6. 6. 30	漆喰クリームで仕上げるカラフルで真ん丸な泥だんごを作り、素材の性質や丸く仕上げる工夫を学んだ。 (講師：増渕佳子)	26
バスツアー 初夏の弥陀ヶ原を散策	6. 7. 15	弥陀ヶ原を散策し、高山植物、立山カルデラの展望などを楽しみながらその特徴を学んだ。 (講師：坂井奈緒子、増渕佳子、太田道人)	30
スペシャルデー 特別展「たのしむ重力」 の見学と「振り子スネーク」 工作	6. 7. 20	特別展の解説の後、長さが少しずつ短い8個の振り子を一列に並べた「振り子スネーク」を作製した。 (講師：市川真史、近藤秀作)	14
野外教室 城南公園でセミの抜け殻 調査(第1回)	6. 8. 10	城南公園でセミの抜け殻を集め、種類や個体数を調べた。調査結果は科学博物館研究報告で発表予定。 (講師：岩田朋文)	8
野外教室 城南公園でセミの抜け殻 調査(第2回)	6. 9. 8	同上	6
科学教室 組み立てよう！クジラの 全身骨格標本	6. 10. 27	科学博物館所蔵のクジラ全身骨格標本の組み立てキットを組み立て、クジラの体の構造を学んだ。 (講師：藤田将人、岩田朋文、本田実咲)	22
野外教室 富山の海でビーチコーミ ング	6. 11. 9	砂浜を歩きながら貝殻などの漂着物を探し、海岸の地形や季節風との関係を学ぶ予定であったが、講師都合により中止。(講師：吉岡 翼)	—
野外教室 冬の野鳥観察	6. 12. 7	県内有数のカモ類の飛来地である富山県中央植物園で冬鳥を観察する予定であったが、雨天のため中止。 (講師：高畑 晃)	—
科学教室 スチレンプレーンを飛ば そう！	6. 3. 24 6. 4. 7 6. 4. 21 6. 5. 19 6. 6. 16	スチレンプレーンを製作し、城南公園で飛ばした。友の会入会勧誘、及び、令和7年度以降に実施を構想中のペーパーグライダーを飛ばす通年活動の宣伝なども目的とし、同じ内容で5回開催した。 (講師：ト部敦夫、市川真史)	25 (4) ※ ¹ 8 (3) ※ ¹ 雨天中止 21 (3) ※ ¹ 39 (0) ※ ¹
第2回役員会	6. 12. 15	次年度総会に提出する議案について協議した。	11
会報の発行 (編集：岩田朋文)	6. 1. 10 6. 3. 1 6. 4. 20 6. 6. 15 6. 7. 10 6. 9. 25 6. 11. 5	第150号 第151号 第152号 第153号 第154号 第155号 第156号	

※¹ 非会員を含む総参加者数。カッコ内は会員の参加者数を示す。



科学教室
組み立てよう！クジラの全身骨格標本



野外教室
スチレンプレーンを飛ばそう

14 アンケート調査結果

I プラネタリウム幼児向け投影参加団体アンケート

1 目的と方法など

番組の感想や運用方法に対する意見を聞き今後の改善につなげるため、アンケートを実施した。
(担当：近藤秀作、宮野 彩)

- (1) 期 間 令和6年6月3日(月)～7月9日(火)
- (2) 対 象 参加した111団体
- (3) 実施方法 当日受付時に配布し、退館までに回収、または後日FAXで受取り
- (4) 回 答 数 71団体

2 アンケート結果

(1) 観覧した幼児の年齢

71団体から回答があり、年長70団体(86%)、年中8団体(10%)、年少3団体(4%)であった(複数学年で来館の団体あり)。

(2) 番組前半(星座紹介・七夕の話)の評価

(2-1) 番組の内容

おおむね好評であった。

(%)

内 容	とても良い	良い	ふつう	あまり良くない	良くない
星座紹介・七夕の話	78	21	1	0	0

(2-2) 内容への興味度

おおむね好評であった。

(%)

内 容	とても良い	良い	ふつう	あまり良くない	良くない
星や星座に対する幼児の興味が高まった?	59	41	0	0	0

(3) 番組後半(ほしをつかまえたおうじ)の評価

(3-1) 番組全体

昨年度のアンケート結果では、年中・年長は2年連続で来館することから、例年のオリジナル番組とは異なる番組を希望する団体があったため、プラネタリウムリニューアル時に導入された番組「ほしをつかまえたおうじ」の上映を行った。絵本を原作とした番組で、幼児向けで教育的な内容が良いとした団体があった一方、暗いシーンが多いためもっと楽しい雰囲気の番組を求める団体もあり、意見が分かれた。

(%)

内 容	とても良い	良い	ふつう	あまり良くない	良くない
ほしをつかまえたおうじ	33	43	23	1	0

(3-2) 約 14 分間の番組の長さ

9 割以上からちょうどよいとの回答を得た。

(%)

内 容	短かった	少し短かった	ちょうどよい	少し長かった	長かった
番組の長さ	0	1	93	6	0

(3-3) 内容の分かりやすさ

おおむね分かりやすかったとの回答があった一方、物語が最後までどのような展開になるかわかりづらく小学生向けの内容ではないかといった回答も得た。

(%)

内 容	とても思う	そう思う	わからない	あまり思わ ない	全く思わない
内容は分かりやすかったか	23	63	7	7	0

(4) 自由記述意見

感想や意見など

- ・七夕の内容は星のきれいな映像の中、わかりやすいストーリーでした。少しずつ全体が暗くなるのも、子ども達もびっくりすることなく夜空の星を楽しむことが出来た。「ほしをつかまえたおうじ」も子どもたちから「楽しかった」「この絵が好き」という嬉しそうな感想をたくさん聞きました。
- ・プラネタリウムの進行の方、とても子ども達が楽しくお話を聞けて、上手に話されてよかったです。いつも集中できない子もしっかり聞いていました。
- ・前半の星座や七夕のお話が子どもは心に残ったようで帰りのバスの中でも「オレンジの星 アンタレス」「さそり座！！私はてんびん座。」「おりひめとひこぼし 天の川をはさんで離れてさみしそう。」という話がきかれました。「ティラちゃんと会えて嬉しかった」「風の強い所やボールの所、四角い部屋が楽しかった。」と、子どもが話をしていました。

Ⅱ プラネタリウム学習投影参加校アンケート

1 目的と方法など

番組の感想や運用方法に対する意見を聞き今後の改善につなげるため、アンケートを実施した。

(担当：近藤秀作、宮野 彩)

- (1) 期 間 令和 6 年 9 月 17 日 (火) ～ 11 月 29 日 (金)
- (2) 対 象 参加小学校 69 校 (市内 63 校、市外 6 校)
- (3) 実施方法 当日受付時に用紙を配布し、退館までに回収または後日 FAX・メールで受取り
- (4) 回 答 数 市内 47 校、市外 3 校

2 アンケート結果

(1) 番組について

①評価

前年の評価との比較のため、市内学校のためのデータを集計した。内容4項目について「とても良い」が9割以上と、昨年度同様おおむね好評だった（括弧内は令和5年度）。

(%)

内 容	とても良い	良い	ふつう	あまり良くない	良くない
1 太陽と月の動きの解説	94 (95)	6 (5)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
2 星座・星の色の違いの解説	91 (92)	9 (8)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
3 星の動きの解説	91 (97)	9 (3)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
4 太陽系旅行	91 (94)	9 (6)	0 (0)	0 (0)	0 (0)

②自由記述意見

- ・ちょうど理科で月や星の見え方の学習をしていたため、子供たちも興味津々で楽しくプラネタリウムの学習に取り組みことができました。方角の確認から丁寧にさせていただき解説もとても分かりやすかったです。
- ・星の動きを指でなぞる活動など、子供が参加できる形の内容だったので、とても楽しく鑑賞することができたのが良かったです。
- ・前年度の学びも振り返ることができ、丁寧に太陽や月、星などの説明もさせていただき、分かりやすい内容で良かったです。施設利用前のオリエンテーションもプラネタリウム投影の内容と関連づけられていて、有難かったです。

(2) 学習投影以外の学習活動について

学習投影観覧以外にどのような学習活動を館内で行ったかを尋ねた（複数回答）。

①集計結果

回答したほとんどの学校が展示の自由見学のための利用であった。なお、多くの学校がバスの運行時間の関係で、展示見学の時間がとれない現状がある。一方、自由記述からは多くの学校から館内見学を希望する意見が上がっており、展示見学の需要があることが分かる。以前からある問題だが、依然として課題が残っている。

学習活動	回答数 ※複数回答あり
1 先生による展示の解説	1 (4)
2 博物館のワークシートによる学習	1 (11)
3 先生が用意した課題での学習	1 (1)
4 展示の自由見学	25 (48)
5 その他	2 (1)

編集発行

富山市科学博物館

〒939-8084 富山市西中野町一丁目8番31号

TEL (076) 491-2123

FAX (076) 421-5950

ホームページ <https://www.tsm.toyama.toyama.jp/>

令和7(2025)年7月発行

印刷所 (有)ヤツオ印刷 TEL (076) 455-1201